

vol.
54

2024.03

Tezukayama

大学通信帝塚山

UNIVERSITY LETTER

2023 WINTER

SINCE 1964
60th

第一回卒業式

2024年、大学開学60周年

帝塚山大学の
これまでとこれから
60年の歴史を未来へ

日本初の女子大教養学部、はじまる。

女子大学教養学部という、この他に類を見ない大学を実現させたのは、森磯吉理事長・学園長(初代学長)、熊沢安定(開学当時、学監のちに副学長)をはじめとする教職員らの情熱の賜であった。



2



3

4

開学の年に大学の学舎は完成しておらず、第1回の入学式は1964年(昭和39)4月12日に帝塚山学園円形講堂(学園前キャンパス)で挙行了した。第1期の新入生は108人。同4月18日、灘尾文部大臣を招

き、開学記念式典が華々しく行われた。1年目の授業は、帝塚山短期大学の円型校舎の4階を間借りして実施した。1965年(昭和40)、「三雄の丘に旧1号館(現在は6号館西側芝生面)が完成。エレベーターを備え付けるなど最先端の設備を採り入れた9階建ての学舎は、後にできた阪奈道路から真正面にその威容を捉えることができた。翌年には、11号館を備えた2号館が竣工した。開学当初は、旧1号館内の3教室を利用していたにすぎなかった図書室は、1978年(昭和53)に独立した4階建ての図書館となった。さらに、体育館やテスコートなどの施設が次々と整備された。

教養学部には、「近代の社会と文化」「日本の社会と文化」および「国際関係と国際理解」の3コースが設けられ、女子大学には珍しく社会科学系の科目が充実していた。1チーム10人の学生に対し、2人の教員が指導に当たるという少人数教育で、当時はまだ珍しかったフロゼミ(のちの基礎演習)を置き、2年次からは外書講読を行うなど、きめ細かくも質的な授業が展開されていた。



4

教える教員陣も文部省(現・文部科学省)が「本当に来るのか?」と驚いたほどの経歴の持ち主でありながら、「教育への情熱」に溢れていた。教員は自身の研究室に茶菓子を準備し、学生はゼミとは関係なく自由に出入りして歓談していたという。本学が標榜する「学生と教員の距離が近い大学」の素地は、開学当初より形づくられていたといえよう。学生たちは、このような流の教員のもとで薫陶を受け、近代・日本・国際の全体にわたる高度な知識を身につけることができたのであった。

しかし、本学がめざした既存の枠組みにとらわれない自由な研究と学習が基盤となる「教養」という学問は、「一般教養」との誤解を受けやすく、その先進性や内容の本質を理解されないことも多かった。真のジェネラリストを育成するという、本学の教育への姿勢と成果は高い評価を得ていたものの、時代を経るにしたがって、世間が大学に対して求めるものが「教養」から「資格・専門」へと変化した。さらには女子大学自体の人氣が低下傾向にあったことも影響し、複数の学部を持つことで教育・研究環境をより活性化すべきであるという声が、学内でも日増しに大きくなっていった。

初代学長森磯吉は、いずれは男女共学化にするという意志のもと、大学名に女子の名称を冠さなかったという。10年以上の検討と討議を経た1987年(昭和62年)、経済学部設置に合わせ、帝塚山学園が大学創設の初期から構想していた「男女共学化」が、ついに実現することとなる。

特集

2024年、大学開学60周年

帝塚山大学歴史館で知る 帝塚山大学の これまでとこれから 60年の歴史を未来へ



大学通信帝塚山54号 2024.03

01-06 特集

2024年、開学60周年

帝塚山大学のこれまでとこれから
60年の歴史を未来へ

- 07 キャンパスレポート
- 09 クラブ・サークル活動紹介
- 12 卒業生紹介
- 13 地域連携×大学連携
- 15 キャリアサポート
- 17 IRレポート
- 19 研究紹介
- 20 奈良学への招待・所蔵品紹介
教員業績図書紹介
- 21 帝塚山TOPICS
- 25 Event & Information
- 27 国際交流・入試情報



Tezukayama University Archives 帝塚山大学歴史絵巻 Vol.7

帝塚山大学歴史館(2013年/平成25年)

※ポスターは常設展示化された後に作られたもの



帝塚山大学歴史館は、大学開学50周年の2014年(平成24)の前年に大学図書館が開催した特別展示「図書館所蔵資料からふり返る帝塚山大学50年史」の開催をきっかけとしてオープンしました。

当初は、歴史館自体を別の施設として活用する方向で考えられていたこともあり、2013年(平成25)10月13日、14日実施の第49回虹色祭(大学祭)の期間中のみに限定した展示とする予定でしたが、特別展示が好評を博したため、そのまま常設展示と

することに変更されたのです。

同館には、大学創設から未来への展望を網羅する4部構成のパネルが壁一面に展示されており、それぞれの時代を象徴するテーマが写真をふんだんに用いて伝えられています。また、開学時の申請書類やパンフレット類、旧校舎で使用されていた看板や、かつては卒業式で着用されていたアカデミックガウンなど、本学の歴史を感じさせる品々が並んでいます。

入り口正面から見える初代学長の森磯吉と本学の建学の精神はオープン当初には掲示されておらず、開学50周年を迎えた2014年(平成26)に追加されました。館内のデジタルサイネージから流れる大学紹介映像(DVD)は、同年に奈良県新公会堂で行われた50周年記念式典の記念品として周年誌とともに制作されたもの。各年に起こったできごとに関連する本学の卒業生や教職員が出演し、50年の沿革(制作当時)を伝えています。

1964 帝塚山大学開学
4月12日、第1回入学式挙行
4月18日、開学式
「帝塚山大学新聞」発刊
1965 旧1号館が完成し、新学舎へ移転
大学寮完成
「帝塚山大学紀要」第一号刊行
1966 資格課程(教職・図書館司書・博物館学芸員)設置
バス路線 学園前〜大学間に加え
生駒〜大学間を増設。のちに富雄〜大学間に変更
帝塚山考古学談話会、始まる
1967 学歌「この丘に立てば」完成
第1回卒業式挙行
1968 食費拡張部分、クラフルーム完成
校章・標準を制定
大学校門完成
就職指導室を設置
1969 バス路線 東生駒駅〜大学間に変更
学監制を廃止し、副学長を置く
大学寮中止を決定
帝大抗議集会。正門外に他大学生が集結

熊沢安定 学監

開学記念式典での
森磯吉学長(右)

東生駒キャンパスと学園前キャンパスの2キャンパス制となり、県下最大の学生数を誇る私立大学に。地域に開かれた大学として、地域で活躍できる人材の育成をさらに強化していった。



2004年(平成16)、帝塚山大学短期大学部を発展的に改組し、4年制大学へ組み込んだ。短期大学部を継承し、栄養士課程を主とする『食物栄養学科』と居住関係の2学科を擁する『現代生活学部』に加え、人文科学部の人間文化学科を発展させた『心理福祉学部』と地域福祉学科を有する『心理福祉学部』の2学部が、学園前キャンパスに新たに設置された。

これにより、大学キャンパスが東生駒キャンパスと学園前キャンパスの2キャンパスとなり、6学部9学科3研究科に5千人を超える学生が在籍する、奈良県下最大の文系総合大学が誕生したのである。

並行して、地域に開かれた大学としての役割を果たす施設の設置も進められた。地域の方々の心のケアとサポートを行う「心のケアセンター」(2005年/平成17)、奈良県下で2番目に博物館相当施設の指定を受けた『大学附属博物館』(2004年/平成16)、社会人向けセミナーや講座にも利用できる『大阪サテライトキャンパス』(2006年/平成18)などが新たに設けられた。

2007年(平成19)、教養学部のシンボルでもあった旧1号館が、耐震基準の見直しと老朽化のために取り壊されることがなった。同年2月には、同窓会主催の「1号館お別れ会」が開催され、卒業生や当時の教職員らが屋上から風船を飛ばし、懐かしい学舎との別れを惜しんだ。現在、その跡地は芝生広場として学生の憩いの空間となっている。3月には、隣接した場所に新1号館が竣工し、前面がガラス張りの新しい学舎が誕生した。

2009年(平成21)、学園前キャンパスの現代生活学部にて「子ども学科」を新設。18号館を建設し、地域の子育て支援の拠点となる「子育て支援センター」を館内に併設した。同年、専門分野により適した名称とするために、人文科学部を人文学部へ名称変更。2010年(平成22)には、新しいタイプの法学部をめざして、法政策学部を法学部へと改組した。2012年(平成24)には、経営情報学部を経営学部へと名称変更するとともに、人文科学研究科臨床社会心理学専攻を、博士課程を置く「心理科学研究科 心理学専攻」に改組し、心の問題に科学的にアプローチする心理学を探究する研究科を設置した。

このように、本学では、「社会の要請に応える専門知識と創造力、実践力を備えた人材の育成」を実現するために、時代の変化を捉え、社会のニーズに応えるべくカリキュラムに改善を加えてきた。学



▲地下鉄御堂筋線なんば駅乗換口に掲出された看板。非常に目立つ位置で、待ち合わせの目印になったという。(2010年/平成22ころ)

◆帝塚山大学ラッピングトレイン(2004年/平成16年)。高校生に対する認知の向上のため、さまざまな広告掲出が行われた。

【1】現代生活学部にも子ども学科が新設されたことに伴い建てられた18号館(2009年/平成21)【2】【3】地域福祉学科・心理学科の授業の様子。地域福祉学科用に学内に高齢者や障害者の自立支援を学ぶための演習室等も整えた。【4】【5】【6】左から順に、給食経営管理室(食物栄養学科)、製図室(居住空間デザイン学科)、保育演習室・子育て支援センター(子ども学科)。高度な知識や技術で、現代社会に貢献できる専門的職業人の育成をめざす学科が加わり、本学の学びの幅は一層広がった。【2】～【6】2004年/平成16)【7】大阪サテライトキャンパス。寺島実郎氏の連続リレー講座など特色ある催しを行っていた。(2006年/平成18)

開学当時から「いずれ時至れば共学とする」と語っていた森磯吉初代学長。経済学部新設とともに、ようやく男女共学化が実現した。その後、本学は社会のニーズに応え、学部と研究科を増やしていった。



1988年(昭和63)平成3ころには、さらに志願者が殺到した。学内では入試会場を確保できないため、駐車場に仮設プレハブ校舎を建て、体育館を会場として利用することで、多数の受験生に対応した。そして1989年(平成元)には男子の在学生数が女子を超えることとなった。

男女共学化により、学生生活面にも二層の彩りが添えられた。1989年(平成元)には学生の作詞作曲によるカレッジソング「希望の光」が誕生し、その翌年には初めてのシンボルマークが学生投票により選ばれ、さまざまな大学グッズが制作された。女子大学時代から盛んであったクラブ活動も男子の入学により、公式野球部をはじめとするさまざまな競

トコンピュータに接続する110台のパソコンを備えた。翌年にはBBSを設け、学生が自宅にいながらパソコンで大学の情報を閲覧できるという全国初の試みを実施し、時を同じくして、独自のe-ラーニングシステムTIES(Teikoku Internet Educational Service)による教育支援も始められた。これらは「情報・ITに強い帝塚山大学」の礎となったといえる。

教養学部教員の布陣も豪華であったが、経済学部を担当する教員も、それに劣らず華々しい研究業績を有していた。ノーベル賞候補に上がる教員を擁していたほか、引用論文数でも世界で14位、国内ではベスト10、西日本の私立大学ではトップ96大学ランキング/朝日新聞出版社に入るなど、教育のみならず研究面にも強い帝塚山大学を内外に印象づけた。

1988年(昭和63)平成3ころには、さらに志願者が殺到した。学内では入試会場を確保できないため、駐車場に仮設プレハブ校舎を建て、体育館を会場として利用することで、多数の受験生に対応した。そして1989年(平成元)には男子の在学生数が女子を超えることとなった。

技が気に充実することとなった。華やかな時代を反映するかのごとく、競技ダンス部やスキー部(競技)、ゴルフ部などの健闘も光った。新たなクラブの創設が相次ぎ、クラブ・サークル数とも本学史上最大数を誇った。

1991年(平成3)に経済学研究科を設置、1993年(平成5)、経済学研究科に経営情報学を増設、1996年(平成8)に人文科学研究科を増設、1997年(平成9)に法政策学部、1989年(平成10)に経営情報学部への改組転換、2001年(平成13)には法政策研究科の新設と社会と時代のニーズに応え、本学は学部と研究科を増やしていった。

1999年(平成11)、本学の歴史とともに歩んできた「教養学部」が人文科学部へと改組され、ついに「教養」の文字が大学より消えることとなった。教養学部の理念を引き継いだ人文科学部は、日本文化学科、英語文化学科、人間文化学科の3学科制とした。

そして、2004年(平成16)、4学部6学科となった本学は、2000年(平成12)に短期大学部として組織統合された帝塚山短期大学を包括し、東生駒キャンパス、学園前キャンパスの2キャンパスを有する文系総合大学へステージを進めることとなる。



【1】男子と女子が初めて横に並んだ共学化初の入学式。本学の男女共学化はさまざまなメディアで取り上げられた。大学の共学化により帝塚山学園の一貫教育が完成した。(1987年/昭和62)【2】建設が進む経済学部棟。(1986年/昭和61)【3】軽食・喫茶用の第2食堂。ガラス張りのサンルームのようなしつらえて、今の中庭に面していた。(1987年/昭和62年ころ)【4】卒業式の様子。当時、入学式も卒業式もキャンパスで行われていた。後輩が体育館前の噴水に飛び込んで、明るく楽しく先輩を送り出すのが、卒業式の恒例行事であった。この噴水は、6号館の建設(1997年/平成9年竣工)に伴い、取り壊された。(1996年/平成8年ころ)【5】経済学部棟1階に設置されたラウンジ。2014年に能動的な学習のための産学連携スペースと姿を変えた。



6



7



8

2023年(令和5)には、本学の歴史上初の女性学長が誕生し、60周年を目前に控えて新時代の幕開けとなった。本学の「実学教育」とは、「時代を生き抜く力」

サイエンスの基礎が学べる科目を全学部全学科で展開した。同時に、経済経営学科ではビジネスでのデータ活用について学、データサイエンスベーシックコース(Data Science Basic course for Business / DSB)がスタートした。

この時期は、学生の主体的な学習を支える学修施設やキャンパスライフを充実させる環境の整備を積極的に進めたときでもある。2013年(平成25)1月、東生駒キャンパスの図書館に学生の自主学習を促進する「アクティブラーニングスペースCキューブ」を整備した。並行して、学内のはほぼ全施設に無線LAN環境を整え、7号館のPC自習室を刷新した。2014年(平成26)に学園前キャンパスに「学習支援室」が、東生駒キャンパスに「地域交流サロン」「インキベーションルーム」が誕生した。

2015年(平成27)年には、東急ハンズ(現：(株)ハンズ)がデザインを監修した「TEZUKAYAMA FOREST CAFE」が東生駒キャンパスにオープン。同じ年に、同窓会の支援により、第3クラブハウスを改修し、宿泊可能な「セミナーハウス三碓」とリニューアルした。2016年(平成28)には、東生駒キャンパス1号館4号館、6号館の各棟にラーニングコモンズとリサーチコモンズを新設。学園前キャンパス14号館の学生ホールは、白木と緑を基調とした明るいくつろぎ空間へとリノベーションされた。また、同年4月からの奈良県立図書館との

相互協定により、学生・教職員が利用できる資料の数が大幅に拡大した。その翌年の2017年(平成29)には、大型プロジェクターや製本機がそろったクリエティブ施設「クリエティブコモンズ」を両キャンパスに設置。2022年(令和4)には、設計からプロダクトデザインまでが行える居住空間デザイン学科の実習室「DESIGN Lab」が学園前キャンパスに誕生した。

2020年(令和2)の初めには、未曾有の危機である新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、高等教育界は新たな局面を迎えることとなった。感染対策のために、対面での教育研究活動は制限を余儀なくされ、その結果、ICT技術による遠隔オンライン授業の普及が急速に進んだ。本学では独自の多機能ラーニングシステム「TALES (Teukayama Active Learning Education Square)」の機能を拡張し、対面授業と同等の質の双方向授業を実現。実施が困難と思われた産官学・地域連携プロジェクトもICTツールを駆使することで遠隔地との協働を推進した。



9

開学60周年記念 シンボルマークが決定

2024年に開学60周年を迎えるにあたり、周年の機運を高めることを目的として、「帝塚山大学開学60周年記念シンボルマーク」を新たに制定し、広報媒体などで使用することで学内外へ広く発信することとした。

6月12日～8月31日にかけて、同シンボルマークのデザインを在学生に向けて募集し、合計21点の応募がありました。各学科代表の教員、及び学長・副学長、有識者で構成された選考委員会による選考の結果、「グランプリ」作品1点、「入選」作品3点が選ばれました。

「グランプリ」作品

現代生活学部居住空間デザイン学科 高瀬 将生

「入選」作品

大学院人文科学研究科 日本伝統文化専攻 博士前期課程 柴田 喜好

現代生活学部居住空間デザイン学科 猪木 愛里

現代生活学部居住空間デザイン学科 村上 華優希

高瀬さんの「グランプリ」作品をもとにした開学60周年シンボルマークデザインは、2023年12月1日～2025年3月31日までの間、本学の広報物やホームページ等に掲載し、開学60周年を学内外へアピールするアイコンとして使用します。



[6] 東急ハンズ(現：(株)ハンズ)がデザインを監修した「TEZUKAYAMA FOREST CAFE」(2009年/平成21)[7] セミナーハウス三碓。洋室・和室の宿泊室、ミーティングルーム、大浴場を備えた施設に生まれ変わった(2015年/平成27年)[8] 学園前キャンパスのDesign Lab。製図からプロダクトデザインまであらゆるデザインを可能にする施設。[9] コロナ禍においても、遠隔との地域連携プロジェクトをICTツールを活用して推進した。写真は沖繩の企業とZoomでつなぎ、提案を行う様子(2021～22年/令和3～4)

2024 帝塚山大学開学60周年

2023 山添村との連携協定を締結
帝塚山大学初の女性学長が誕生
教育学部認定給本士養成講座がスタート
大学開学60周年シンボルマークを決定

2022 大学通信50号(記念号)発行
帝塚山幼稚園と幼稚園キンダーセンター事業に関する連携協定を締結
東生駒キャンパスグラウンドの芝生化
学園前キャンパスにDesign Labを設置
教育学部認定給本士養成講座の開設認定
女子バレーボール部 全日本インレ初初ベスト8

2021 一部秋季リーグー勝0敗の全勝で2連覇
女子バレーボール部 天皇杯・皇后杯ファイナルラウンドに
奈良県勢では男女通じて初出場
努力を続けていく。

地域とともに歩む「実学の帝塚山大学」

実学の帝塚山大学」というスローガンを掲げ、地域の企業や自治体などとの連携協定をもとに、奈良県全域でプロジェクト型学習を推進。「時代を生き抜く力」と「時代の変化に対応する力」を身につける「実学」教育を今後も展開していく。



2

総合大学ならではの幅広い教育研究分野を生かした産官学・地域連携プロジェクトが奈良県全域で展開される中、奈良県が主催する「県内大学生が創る奈良の未来事業」では、2012年(平成24)、2014年(平成26)に、今まで以上に注力していくこととなる。

節目の年を迎えた本学は、「社会に有為な人材を育成する」という帝塚山学園の建学の精神に立ち返り、「実学の帝塚山大学」という新たなスローガンを打ち出した。これを契機に、本学は、大学の教育研究活動の成果を地域の課題解決につなげる、各種のプロジェクト型学習や産官学・地域連携プロジェクトに、今まで以上に注力していくこととなる。

開学50周年を迎えた2014年(平成26)、文学部に新たに「文化創造学科」を開設。「奈良まるごとキャンパス」を合言葉に、古都奈良で日本文化と歴史を探究し、世界に発信できる力を身につけるという新しいコンセプトの学科が誕生した。同年の10月4日、奈良県新公会堂において、帝塚山大学50周年記念式典を挙げる。大学や高等学校関係者のほか、卒業生、企業、団体など約350名を超える人が列席した。

節目の年を迎えた本学は、「社会に有為な人材を育成する」という帝塚山学園の建学の精神に立ち返り、「実学の帝塚山大学」という新たなスローガンを打ち出した。これを契機に、本学は、大学の教育研究活動の成果を地域の課題解決につなげる、各種のプロジェクト型学習や産官学・地域連携プロジェクトに、今まで以上に注力していくこととなる。



3

実学教育の深化をめざした学部の再編も進んだ。2018年(平成30)には、既存の経済学部と経営学部を改組し、経済学と経営学を同時に学べる類を見ない「経済経営学部」がスタート。「ビジネスの現場では経済と経営を分けたりしない」と謳い、社会での即戦力を育成する「実学志向」の新学部が誕生した。続く2019年(平成31)には、現代生活学部こども学科を学部として独立させ、「教育学部こども教育学科」という新たな学部が開設することとなった。

2022年(令和4)からは、データ

年(平成26)、2015年(平成27)は、本学のチーム(順に、経営学部・現代生活学部食物栄養学科、心理学部・心理科学研究科)が優秀賞を獲得し、次々と事業化が進められた。そして、2022年(令和4)には心理学部・心理科学研究科の提案「子どもたちの心の健康をサポートする「心理教育アプリ」の活用」が念願であった最優秀賞を受賞し、翌年から奈良県との共同事業が始まった。

本学の産官学・地域連携による教育研究活動を、段階上のステージへと押し上げたのは、平成29年度私立大学研究ブランド・フォーラムの構築による学際的「奈良学」研究の推進の採択によるところも大きい。本学が推進する学際的「奈良学」を基盤にした同事業により、本学の教育研究活動やプロジェクト型学習はこれまで以上の広がりを見せ、その成果が、新たな自治体との協定や産業界との連携事業に結びつくという好循環をもたらした。



4



[1] 50の人文字。第51回入学式により、学園前キャンパスのハートの広場に描かれた(2014年/平成26)[2] 「実学の帝塚山大学」で近鉄なんば駅構内をジャック(2015年/平成27)[3] 山添村との連携協定式。自治体との連携によりプロジェクト型学習の幅が広がった。(2023年/令和5)[4] 50周年記念式典の様子。右下は、卒業生が社長を務める梅の宿舎と文化創造学科の学生により開発された日本酒ベースの微発砲酒「酒輪」。(2014年/平成26)[5] 地域連携・産官学連携によるプロジェクトの数々。左上から順に、ノベルゲーム型観光アプリ「シギヤン8」(2015年/平成27年)、奈良県内小学校での平和学習(2022年/令和4)、球場を満員にするプロジェクト(2015年/平成27)、生駒産の米粉とはちみつを使用した「帝塚山ロール」(2014年/平成26)、奈良県立奈良民俗博物館での「奈良の昔の暮らし」を体験するイベント。展示も同時開催。(2019年/平成31)

CAMPUS REPORT

学科と研究科の特色ある取り組みを紹介します。

教育学部 こども教育学科



小学校教員採用試験結果が確定 のべ45名合格——過去最高の合格率83.3%

12月上旬に小学校教員採用試験の2次試験の結果が確定しました。実質の合格率は83.3%。昨年度の61.1%を大きく超え、前身のこども学科を含めても、過去最高の合格率です。この好結果をもたらしたのは、何と言っても学生が教職支援センターや教師塾などのサポートを活用しながら、試験対策を計画的に進められ

てたことにあります。特に4年生の前期は、朝早くから夜遅くまでずっと勉強している姿が見られました。コロナ禍での大学生活が続いた学年でしたが、それに負けずすばらしい結果を出してくれました。

合格者	近畿18名(奈良県5名)	中国9名	関東5名	その他13名
-----	--------------	------	------	--------

現代生活学部 居住空間デザイン学科



頂点をめざせ! 全学年対抗「建築クイズ王決定戦」

9月30日、居住空間デザイン学科の全学年を対象として「建築クイズ王決定戦2023」を開催しました。クイズは2級建築士試験の過去問題から出題され、学生は問題集や参考書で勉強してから当日に臨みました。当日は1年生から4年生までの学年混合チームを結成し、建築士試験を想定した難問に挑戦。会場は大いに盛り上がりました。近年のコロナ禍の影響で、学生にとってもこのようなイベントは久しぶりのことです。今後も楽しみながら建築やデザインについて学び、成長して

いって欲しいと願っています。

人文科学研究科 日本伝統文化専攻

大学院生が考古学研究所シンポジウムで総司会を務めました

9月16日、本学考古学研究所において「安珍と清姫の物語」で有名な和歌山県の下市、道成寺にかかわるシンポジウム「考古学から見た道成寺」が開催されました。本シンポジウムには、人文科学研究科で考古学を学ぶ大学院生も参加し、総司会という大役を果たしました。人文科学研究科は、本学附置施設である考古学研究所や奈良学総合文化研究所、附属博物館の活動にも積極的に参加し、歴史、文化財の研究やその活用法を体験的に学んでいます。



心理科学研究科 心理科学研究科



帝塚山幼稚園との教育連携提案事業による「子育て講座」を開催

9月7日と11月9日の両日、心理学部と帝塚山幼稚園との教育連携提案事業による「子育て講座」を開催しました。子育て講座は、講義とワーク、ロールプレイを通してより具体的に幼児期の子どものかわり方を学ぶ2回の連続講座です。初日は参加された帝塚山幼稚園の保護者の方々と、心理科学研究科臨床心理学専修の大学院修士1年生がグループに分かれて、「ほめる」ワークを体験。お互い

に感じたことを意見交換するなど、保護者も大学院生とともに学び合う有意義な時間となりました。

帝塚山大学大学院より GRADUATE SCHOOL

心理学部 心理学科



大学祭(虹色祭)で「ふれあい広場&おつかいすごろく体験」イベントを開催

心理学部では、新入生歓迎会の「あかね祭」に続き大学祭で独自のイベントを開催。11月18日に構成的グループエンカウターの手法を取り入れたグループアプローチ「ふれあい広場」を、19日に「おつかいすごろく体験」を行いました。すっかり心理学部定番のイベントとなり、学部学科を問わず多くの学生が参加しました。今年は地域住民の皆様の参加もあり、大学生と小学生がグループワークで交流したり、親子で学生の製作したすごろくを楽しんだりする姿が印象的でした。

文学部 日本文化学科



4年間の学びの集大成に向けて 卒業研究中間発表会

日本文化学科ではすべての学生に卒業研究を課しています。卒業研究は大学での学修の集大成。4年次のゼミナールで関心のある研究テーマを設定し、自ら考え、教員の指導を受けながら探究した成果を1,200字に及ぶ卒業論文としてまとめます。11月7日、約80名の学生が3会場に分かれてそれぞれの研究について中間発表を行いました。教員にとっては、学生の成長を実感する機会です。今年も4年生が立派に発表をやりとげる姿を見ることができました。

経済経営学部 経済経営学科



最新のデータをもとに関西経済についてディスカッション

10月31日、経済経営学部のアドバンスクラスに関西経済連合会(関経連)の中村元星氏を招き、関西経済と日本経済について講義いただきました。中村氏は関経連の業務内容について紹介した後、日本経済を概観しながら、関西経済を取り巻く状況について、GDPや輸出品目などのデータをもとに解説。学生に発表させながらブレインストーミングを行いました。その後、「IRの是非」について賛成派と反対派に分かれてディスカッションし、グループごとに意見を発表し合いました。

現代生活学部 食物栄養学科



臨床栄養学実習 最善の治療食を提供できる実践力を

食物栄養学科の臨床栄養学実習では、糖尿病食品交換表の使い方を学びます。糖尿病食品交換表は医療機関の栄養教育の場で日常的に用いられています。この食品交換表を使い、各自が作成した献立を栄養価計算ソフトに入力してみると、エネルギーや各栄養素に若干の差がみられ食品交換表の便利点と同時に弱点も学びます。このように作成された献立を実習で実際に調理することで献立の完成形を学び、また新たな気づきにつながります。最善の治療食を患者様に提供できる管理栄養士をめざすための科目です。

法学部 法学科



歳末の「火の用心」法学科の学生が一日消防署長で巡回視察

12月21日、大型商業施設「ならファミリー」(奈良市西大寺東町)で実施の「令和5年度末 火災予防運動消防フェア」において、法学科3年の馬崎七聖さんが一日消防署長として店内の巡回啓発活動を行いました。法学科では、警察官や消防官をめざす学生に向けてさまざまな官学連携を推進しており、今回の一日消防長の委嘱は奈良市消防局との連携で実現したものです。フェア当日、消防局の制服に身を包んだ馬崎さんは一日消防長として宣誓すると、消防局の職員の方々とともに店内の防火管理状況を視察し、市民の方々に歳末の火災予防を呼びかけました。

強化認定クラブ 女子バレーボール部

東生駒
キャンパス

後一步で勝利を逃す試合が続き、1部リーグ12チーム中で7位に

2023年度関西女子バレー秋季リーグでは、開幕戦の大阪国際大学をストレートで下し、期待の持てるスタートを切った女子バレーボール部。2戦目以降は粘り強い試合運びで4連勝し、このまま順調に勝ち進んでいってほしいと誰もが願う中、中盤で対戦した関西大学に終始リードを許し敗北をしてしまいました。次なる対戦相手、京都橘大学には接戦の末に痛い敗北を喫し、優勝旗を奪還するには残り試合すべてに負けられない状況に。その後、園田女子大学からは1勝をもぎとるも、残る対戦相手には帝塚山大学らしいバレーが展開できずに黒星を重ねることとなってしまいました。最終的には5勝6敗、12チーム中7位という成績で今シーズンを終えました。

もう少しのところでチャンスを出す試合が多く、涙を吞んだシーズンとなりましたが、堀由佳選手(心理2年)がベストスコアラー賞を受賞するなど明るい話題もありました。来シーズンでの首位奪還に向けて、帝塚山全員バレーで果敢に挑むつもりです。



強化認定クラブ 硬式野球部

東生駒
キャンパス全試合で勝ち星を奪えず
屈辱の2部リーグ最下位転落

9月2日から始まった阪神大学野球連盟 2023年 秋季リーグ戦。今季は初戦を延長10回のタイブレークの末に逃すという黒星からのスタートとなりました。その後の試合でも、打線がかみ合わない苦しい展開が続き、最終的には白星をひとつも取ることができずに、2部東リーグの最下位へと転落してしまいました。来季に向けてチームの立て直しを図り、勝利を一つずつ積み上げていくことを胸に誓いました。

強化認定クラブ ラグビー部

東生駒
キャンパスBリーグへの復帰は果たせず
Cリーグ6位で今シーズンを終える

初戦の相手、和歌山大学を118-0と大差をつけて下し、幸先のよいスタートを切った今季リーグ戦。2戦目の関西外語大学、3戦目の大阪大学に敗北し、最終対戦相手の佛教大には不戦勝。その結果、Cリーグで3位となり、C2リーグ4位の滋賀大学と5-6位の順位決定戦で争うことに。その順位決定戦で敗れた本学の最終成績はリーグ6位となりました。Bリーグへの入れ替え戦に進める上位4チームをめざして、来シーズンもチーム一丸で挑みます。

強化認定クラブ レスリング部

東生駒
キャンパス

内閣総理大臣杯では、吉田奨健選手が2部リーグ所属選手で初の決勝進出も

本学レスリング部は、12月9日・10日に金岡公園体育館(大阪府堺市)で開催された「令和5年度西日本学生レスリング秋季リーグ戦」の2部リーグに参加し、6戦全勝で優勝して1部リーグへの昇格を果たしました。

帝塚山大学○[4-3]●関西学院大学
帝塚山大学○[6-1]●桃山学院大学
帝塚山大学○[7-0]●天理大学
帝塚山大学○[5-2]●同志社大学
帝塚山大学○[6-1]●南九州大学
帝塚山大学○[4-3]●関西大学
6戦全勝 優勝

3季連続で2位だった本学は、2019年秋季以来3度目の優勝とともに1部リーグへの昇格が決定しました。2部リーグ優勝校から選ばれる2部最優秀選手賞は、升田康太選手(経済経営1年)に授与されました。

このリーグ戦は、各大学の7階級の代表選手が対戦する団体戦で、参加7校による総当たりで行われます。初戦の相手は今まで幾度となく対戦し、やや分が悪かった関西学院大学。4対3で勝利を収め、好調な滑り出しとなりました。続く他大学との試合も、ポイントゲッターである吉田奨健選手(経済経営3年)、全国レベルの実力者である升田康太選手(経済経営1年)らが着実に勝利を重ね、ともに5戦全勝である関西大学との最終戦にもつれこみました。

初戦で、沼田将吾選手(法2年)が激戦を制して幸先の良いスタートを切ると、その後も各階級で着実に勝利ポイントを稼ぎ、チームスコア4対3の



僅差ながら関西大学に勝利しました。

2024年度の春季リーグ戦からは、強豪チームがひしめく1部リーグにステージを移すレスリング部。今まで以上に厳しい戦いの幕開けですが、チームが一丸となって勝利をめざしていきます。

全国大会でも確かな戦果を残す

西日本学生レスリング秋季リーグ戦にさかのぼること3週間前の11月18日、19日の両日には、金岡公園体育館(大阪府堺市)で「令和5年度内閣総理大臣杯 全日本大学選手権」が開催され、本学レスリング部からは8名が出場しました。

この選手権は、1部・2部リーグの区分なく、各階級から大学代表選手1名が争うという、いわば真の大学日本一の選手を決定するフリースタイルの大会です。

フリースタイル92kg級で、昨年度3位であった吉田奨健選手(経済経営3年)が、組み合わせにも恵まれて、全国大会で初の決勝進出を果たしました。決勝戦では惜しくも敗れたものの、準優勝で銀メダルを獲得しました。そのほかにも、群雄割拠の激戦区である61kg級で、中本公平選手(日本文化4年)が8位入賞を果たしました。

今大会で決勝に進出した大学は、本学以外は全て東日本学連所属。西日本学連所属の大学としては快挙です。また、2部リーグ所属選手の決勝進出は、史上初とのこと(日本レスリング協会調べ)。二重の意味ですばらしい戦績を収めました。



トルコで開かれる国際大会に
吉田奨健選手(経済経営3年)が日本代表として出場

2024年3月3日～12日にかけて開催される「ヤシャドク・ペービエムレ国際大会」(トルコ共和国・アンタルヤ)に、日本代表選手に選出されました。また、2024年2月21日～25日に大韓民国・釜山で行われる国際強化練習及び国際親善試合にも、西日本代表として派遣されました。



注目のサークル

①活動内容 ②アピールポイント ③今年の目標

地域交流サークルてれこん

東生駒
キャンパス地元推しの地域交流イベントなら
まかせて！

自分たちが楽しむことで、周りの人も巻きこんでいけたらいいと思っています！
私たちと一緒に、地域や大学の方々と楽しく交流してみませんか？

代表 座波 拓斗さん(日本文化3年)

①子ども食堂のボランティアに参加したり、地域の未来を考えるイベントで地域の方々と交流したり、奈良を元気にするような各種の活動に取り組んでいます。大学内でも学部や学年の垣根を超えた交流をめざして、いろいろなイベントを企画中です！

②11名(男5名 女6名)

③外のイベントに参加したり、地域や学内で自分たちで企画を考えたり、それぞれがやりたいと思った活動をどんどん進めています。まずは会議に顔を出してみてください！



学外では大和郡山市が活動の中心。老若男女問わず、地元の人と触れ合えます。

ZION

学園前
キャンパス年に一度は豪華商品をかけて
バレーボール頂上決戦！

男女問わず仲がいいのが自慢！
スポーツやイベント事に積極的な人たちが多くて、楽しく活動しています！

代表 廣岡 陽さん(心理3年)

①主に週に1度、東生駒キャンパスの体育館を借りてバレーボールを練習しています。年に一度は大きい体育館を借り、1日運動会と称してチーム対抗戦を行い、優勝賞品をかけた勝負に挑みます。

バレーボールだけでなく、皆でBBQをしたり、ご飯に行ったり、楽しいですよ！

②31名(男17名 女14名)

③バレーボールが好きなら大歓迎。参加すればするほど皆がうまくなっています。にぎやかで優しさあふれるサークルです。



バレーボール初心者でも楽しく活動しています。皆が見違えるほどうまくなってますよ！

面倒見のよさにひかれて帝塚山大学法学部に

営業店で預金業務を経験した後、現在は審査部トレーニーという法人営業に必要な基礎スキルを実践的に学ぶ育成プログラムに参加しています。主な内容は、取引先の決算書などから財務状況を分析し、そのデータをもとに企業の実態を把握していく業務です。若手のうちから財務分析を学べるという恵まれた環境下で、自らを鼓舞しつつ勉強を続ける日々です。まだまだ知識が追いつかずにミスをするもありますが、先輩行員の方々が丁寧に指導してくださるおかげで、一歩ずつ前に進めているように感じます。

帝塚山大学を志望したのは卒業生である兄の影響です。充実した学生生活を送っているのを間近で見ていたので、進学に迷いはありませんでした。入学して驚いたのは、教職員と学生との距離の近さ。想像以上に面倒見がよく、学生の意欲を応援してくださる方ばかりでした。大規模大学では、大勢の学生の中の一人としか認識されない場合もありますが、帝塚山大学は、学生一人ひとりに目を向けて、それぞれの個性を輝かせようとしてくれます。学外での防犯ボランティア活動やアドバンスクラス(選抜学生クラス)でさまざまな経験を積むことができたのも、自分がやりたいことを先生方が強く後押ししてくれたからこそ、懐かしく思い出されます。

もともと企業の再生やコンサルタント業務に興味があって、働きたいと思っていた銀行。このトレーニー期間で確実に知識を身につけ、一日でも早く企業の経営をサポートできるようになることが目標です。最終的には、「藤井さんが担当でよかった」と取引先から言われてみたいですね。



大学時代は、「あっぱれ戦隊 奈良まもり隊」で代表を務め、防犯ボランティア活動を精力的に行っていた。同じ目的を持つ仲間との日々は何ものにも変えられない経験だったという。(写真右)奈良県警からの感謝状を手に記念撮影



(株)南都銀行 勤務

藤井 志温さん

法学部法学科 2022年9月卒業

夢は信頼されるバンカー
企業の成長をサポートしたい

卒業生紹介

行動には必ず理由がある
観察が適切な支援の力に



(社福) 恵生会 四季の森 勤務

照屋 優人さん

現代生活学部こども学科
(現:教育学部こども教育学科)2018年3月卒業

「自分ならできる」その直感を信じて支援職の道へ

「四季の森」は、ADHDや自閉症を起因とする、強度の行動障害を持っておられる方を支援する施設。私は生活支援員として、利用者の生活介助のほか、障がいの適性を見極めて作業やアクティビティをしてもらうなど、利用者快適に過ごしていただくためのサポートを行っています。

今の仕事との出会いは大学での施設実習がきっかけでした。帝塚山大学に進学し、幼稚園教諭の採用試験合格を目標に、授業にもボランティア活動にも熱中する毎日でした。ただ、当時は年配の男性幼稚園教諭の数が少なかったこともあって、自分のキャリアビジョンがイメージできないという悩みを抱えていました。そんな中、実習で「四季の森」を訪れたことが転機に。障がいを持つ利用者に接した瞬間、「この人たちを支援したい。自分ならできる」と、まるで使命感のような決意が急激に芽生えたのです。

障がいを持つ方への支援で重要なのは、「しっかりと観察する」ということ。適切なサポートのためには、彼らが現在置かれている物的・人的環境だけでなく、生育歴にまで目を向けなくてはなりません。パニックなどの行動には必ず理由があります。一人ひとりを幅広く、かつ深く観察し、それぞれに異なる利用者の個性にじっくりと向き合うことが大切なのです。ほんの少しの変化でもストレスになってしまうこともあり、「現状を維持する」という選択が、支援では必要になるときもあります。

めざすは、そばにただで利用者の空気を変えられるような存在になること。利用者の個性を見つめながら、自分にしかできない支援は何かと問い続けていきたいです。



(写真)生駒市の子育て支援事業「サンデーひろば」、明日香幼稚園との「わくわくいるあそび」など、地域との連携事業を通じて、学生は保育・教育の実践力を身につける機会を得ている。照屋さんは「サンデーひろば」で企画や運営に携わった。

クラブ・サークル活動紹介

クラブ・サークルを通じて、学内外で活躍する
帝塚山大学生の姿をお届けします。

4年ぶりに一般来場者を迎えて
第59回帝塚山大学大学祭「虹色祭」を開催

11月18日と19日の2日間にわたり、東生駒キャンパスにおいて第59回帝塚山大学「虹色祭」を開催しました。今年のテーマは「黎(レイ)」。「夜明けを象徴する「黎明」の黎という文字に、新しい1日の始まりという意味を込めています。

今年は4年ぶりに一般来場者を迎え、地域のお祭りらしい雰囲気包まれてキャンパスがにぎわいました。クラブやサークルによるステージ発表やイベントに加え、学科の学修成果の展示も行われ、多くの来場者が訪れました。中央広場には、焼きそばやたこ焼きなどの定番メニューに加えて、豚汁やカレー、自家製ブレンドのお茶など、個性的な模擬店がずらりと並び、いずれもあっという間に完売するほどの盛況ぶりを見せました。

ステージイベントの1日目のトリを飾ったのは、「コレサワ」のライブでした。ステージでしか素顔を見せない覆面歌手「コレサワ」の人気ナンバーに、詰めかけた観客は熱狂的な声援を送りました。2日目は、初日より多くの人が集まり、キャンパスが一層活気づきました。親子連れの一般参加者や友人と連れだった学生らが、芸人によるお笑いライブや楽笑crewによるダンスを楽しんだり、展示を見学したりしていました。

そして、2日間にわたる宴のフィナーレは虹色祭恒例の打ち上げ花火です。18:00になるとMCによる掛け声と同時に音楽が始まり、一斉に大輪の花火が空高く舞い上がりました。夜空を彩る色とりどりの花火を見上げながら、観客はスマホで動画や写真を撮っていました。

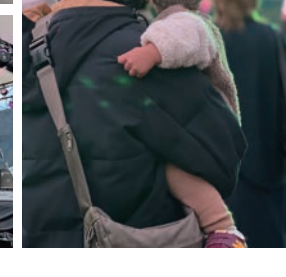
今年は、例年よりもイルミネーションの点灯時期を早め、虹色祭に来られる一般参加者にもライトアップを楽しんでいただきました。花火の余韻が残るキャンパスを照らすイルミネーションの光に、来場者は魅了されている様子でした。

大学祭開催に合わせて、さまざまなイベントも行われました。経済経営学部によるゼミ研究報告会が、18日、5号館を主会場に開催され、プレゼン部門とポスター部門に分かれて学生たちが日ごろの学びの成果を

2023
11.18-19
SAT-SUN.

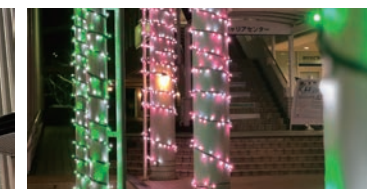
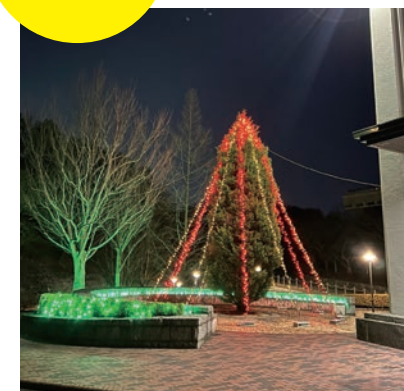


発表しました。また、同日に留学生スピーチコンテストも実施し、外国人留学生が日本語のスピーチの腕を競い合いました。さらに、言の葉協会との産学連携で教育学部の学生が作成するオリジナル紙芝居の贈呈式も開かれました。また、19日には、まほろばでホームカミングパーティーを4年ぶりに開催し、多くの卒業生が大学に戻り、同窓生と旧交を温めました。



2023.11.15
-2024.2.5
WED.-MON.

一足先に冬景色を味わう 虹色祭とともに楽しむイルミネーション



キャンパスイルミネーションの点灯式が、11月15日、東生駒キャンパスで行われました。

虹色祭に間に合わせようと、例年より2週間ほど早めに行われた点灯式。奥村由美子学長の挨拶に続き、イルミネーション推進委員会が企画を担当した学生が企画に込めた思いを説明しました。その後、MCによるカウントダウンの合図でイルミネーションが一斉に光を放ち始めました。

学園会(学生会)から温かい飲み物やお菓子が来場者にふるまわれ、軽音学部によるミニコンサートが行われました。まだ明るさが残る空の下で、日が暮れるにつれてイルミネーションが段々と輝きを増していくのを、学生らは飲み物を片手にじっと見つめていました。

東生駒キャンパスでのイルミネーションは後期テストが終了する2月5日まで(17:00~21:30の間)点灯されました。学園前キャンパスは大規模工事中のため全面的なイルミネーションは控えられ、図書館前の通路に限定されました。(学園前は20:00までの点灯)



実学の帝塚山大学



(写真上)薬師寺レベルの大規模な伽藍が建立されていたことを示す礎石が今も残る(左下)例祭が行われている春日神社を見学(右下)例祭での神事において特別の作法でふるまわれるご飯。その年に収穫された新米が神様に供される。



山添村の史跡や文化財の考古学・民俗学調査がスタート

日本文化学科
×
人文科学研究科
×
山添村

文学部日本文化学科の学生と人文科学研究科日本伝統文化専攻の大学院生による山添村の考古学・民俗学の調査が2023年10月から始まりました。同年2月に締結した本学との包括連携協定に基づき、山添村の史跡や有形・無形文化財の調査を行うもので、考古学ゼミ(清水昭博教授/専門科目…考古学)を専攻する学生と大学院生が毛原廃寺跡(国指定史跡)の発掘調査を行い、民俗学ゼミ(高田照世教授/専門科目…民俗宗教)を専攻する学生と大学院生は、山添村の神事や祭事、風習などの民俗文化(無形民俗文化財)の調査を担当します。山添村は数多くの文化財や史跡を有するだけでなく、集落ごとに異なる多彩な民俗文化を今に残していることも特色のひとつに挙げられます。今回の調査は、由緒不明の奈良時代の寺院跡である毛原廃寺跡の発掘調査に加え、担い手の高齢化や社会状況の変化により消失の危機にさらされている無形民俗文化財を写真や映像に収め、記録資料を作成することで次世代に継承することを目的としています。第一回目となった10月15日は、山添村教育委員会のご担当者案内のもと、毛原廃寺跡と例祭が行われている春日神社を訪れ、今後の調査の方向性を探りました。



子どもたちに贈るクリスマスの魔法 認定絵本士講座履修生によるおはなし会

こども教育学科
×
奈良市中央図書館

今年度、新規開講した認定絵本士養成講座を履修することも教育学科の学生5人が、12月23日、奈良市立中央図書館(奈良市東寺林町38)で、地域の子どもたちを対象としたおはなし会を実施しました。

学生は『100人のサンタクロース』『まどからのおくりもの』『てぶくろ』など、クリスマスにちなんだ絵本を選書し、集まった50人を超える親子連れに向けて絵本の読み聞かせを行いました。そのほかにも、第3弾が全国発売されたばかりの、(一社)言の葉協会との産学連携で作られたオリジナル紙芝居「言の葉紙しばい」を上演したり、ハンドベルで「あわてんぼうのサンタクロース」の演奏を行ったりして、参加者のクリスマス気分を一層

盛り上げました。会の終わりには、学生手作りのポップアップカードがプレゼントされるというサプライズもあり、参加した子どもたちにとって忘れられないクリスマスのひとときとなりました。

教育学部こども教育学科では、小学校教諭や幼稚園教諭、保育士をめざす学生が、地域や教育現場で絵本の読み聞かせを行うなど、子どもたちの情操を育む読書教育を推進する地域貢献活動に学部をあげて積極的に取り組んでいます。

今後も、奈良市立中央図書館と協力し、季節ごとのおはなし会などのイベントを企画・運営していきます。



(写真上)産学連携によるオリジナル紙芝居(下)クリスマスおはなし会の様子



地域連携×大学連携

本学は、「実学の帝塚山大学」をスローガンに掲げ、自治体、企業、研究機関などと連携して地域や社会の課題解決に取り組む「プロジェクト型学習」に注力しています。

奈良県を中心に各所で展開する地域連携、産官学連携のほか、学術協定をもとにした大学連携、総合学園の強みを生かした帝塚山学園内での教育連携など、多種多様な協働事業を通じて、学生は実践力とともに「時代を生き抜く力」と「変化に対応する力」を身につけます。



やわらかい「帯解レタス」にぴったりな大人味 学生考案のオリジナルドレッシングを奈良市内の飲食店で提供

食物栄養学科
×
NPO法人MYP農場



「帯解レタス」に合う地産地消と健康を意識したドレッシングの開発が呼びかけられて実現したものです。

11月23日、奈良市大宮町6丁目のMYPスタジオキッチンで行われた「帯解レタス専用ドレッシング完成試食会」で、各大学自慢のオリジナルドレッシングが発表さ

れ、奈良県下の管理栄養士養成課程がある大学(奈良女子大学、近畿大学、帝塚山大学、畿央大学)で編成された食育ボランティアサークル「ヘルスチーム菜菜」に所属する本学現代生活学部食物栄養学科の学生が、リーフレタスに合うドレッシングを新たに開発しました。

この連携は、農業と福祉の連携農園「MYPユニバーサル農園」を運営するNPO法人MYP農場(奈良市、増井義久理事長)からヘルスチーム菜菜に、同園で収穫されるリーフレタス

れ、本学からは「シャキシャキ食感のタケノコドレッシング」「ブリブリエビのマヨネーズ風ドレッシング」の2品がお披露目されました。10月上旬に行われた中間発表会では、他大学が1〜2品で勝負をかける一方で、本学は季節感と食感にこだわった10種類ものオリジナルドレッシングを準備。そこでもっとも高い評価を得た「シャキシャキ食感の～」は完成試食会でも審査員の好意的なコメントが多く集まり、栄えある第一弾の販売製品として、そば処二条(奈良市大宮町6)で12月から1か月間にわたり提供されることが決定しました(他大学も順に発売)。店舗前の自動販売機での販売も今後検討される予定です。



タケノコドレッシングを考案した丸谷香奈さんは(食物栄養3年)「中間発表会で評価を受けて、より一層タケノコの歯ごたえを出すために大きめにカットするように変更した。このまま食べてもおいしいとの感想をいただけて光栄です」と話しました。

(写真左)しっかり目の味がレタスにもお酒にも合うと好評(右下)ドレッシングのこだわりポイントなどを開発学生がプレゼンテーション



地震などの災害避難知識を楽しく学ぶ「防災運動会」 防災グッズ借り物競争やクイズまで! 協力しながら皆で避難せよ!

法学科・こども教育学科
×
東登美ヶ丘小学校



(写真)借り物競争で指示カードを確認する児童。なかには「正義の味方」など、くすりとさせられるカードもあり、児童らは大いに盛り上がった

法学科の末吉洋文教授(国際法・平和学)のゼミ生と、こども教育学科の植松利晴講師(社会科教育学)のゼミ生がプログラムを考案した「防災運動会」が、11月24日、市立東登美ヶ丘小学校(奈良市東登美ヶ丘4)で開催されました。同小学校の3年生と4年生、約200人が5つの競技に挑戦し、楽しみながら防災知識を学びました。

競技のひとつ、「防災グッズの借り物競争」は、カードに記載されている「防寒になるもの」「周りを明るくするもの」などの指示に合致する防災グッズをクラスメイトや家族から借り受け、学生が務める審判がその正誤を判断します。また、津波からの避難を想定した「イマジン津波!」は、けが人や外国人と一緒に連れて高台へ逃げるというミッションをこなす競技。児童らは、毛布と物干し竿で即席担架を作り、けが人に見立てたクマのぬいぐるみを運んだり、日本語に不自由な外国人に扮した学生に簡単な言葉で逃げるよう促したりして、避難所を想定した教室まで避難しました。最後に実施した「防災〇×クイズ」で、クイズが読み上げられるや否や、児童らは正解をめがけて運動場をいっっぱい駆け回り、防災知識の総仕上げを行いました。

運動会の2週間前には事前学習会を開き、教員や防災士とともに学生が講師を務めました。災害に備えた家族会議や防災リュックの準備の大切さのほか、フェイクニュースへの注意など、災害時に必要となる知識を児童に伝えました。



(右上)〇×クイズの設問を真剣に聞く(右下)けが人に見立てたピンクのクマを協力して避難所に運ぶ

今年も優良企業への就職多数！ 早めのキャリアセンター利用が内定のカギに

民間企業も公務員も、希望の進路で内定を獲得



京都中央信用金庫
経済経営学部
経済経営学科4年
池上 怜那さん



株式会社百五銀行
経済経営学部
経済経営学科4年
森本 航平さん



パナソニックリビング近畿株
経済経営学部
経済経営学科4年
佐藤 翔さん



大阪市教育委員会(中学・国語教諭)
文学部
日本文化学科4年
青山 夏紀さん



東京都特別区(行政職)
法学部
法学科4年
米原 杏南さん



奈良市役所(行政職)
法学部
法学科4年
白井 亜友華さん



法務省(法務教官)
心理学部
心理学科4年
栗野 萌さん



奈良県教育委員会(栄養教諭)
現代生活学部
食物栄養学科4年
小野 瑞季さん



旭化成住宅建設株
現代生活学部
居住空間デザイン学科4年
山口 拓哉さん



大阪府庁(建築職)
現代生活学部
居住空間デザイン学科4年
大澤 香乃さん



奈良県教育委員会(小学校教諭)
教育学部
こども教育学科4年
北門 遼大さん



生駒市(幼稚園教諭・保育士)
教育学部
こども教育学科4年
坂根 未希子さん

2024年3月卒業生 主な内定先

業種内50音順
2024年1月現在

【民間企業】

旭化成住宅建設株/アパホテル株/イオンリテール株/(医)景岳会 南大阪病院/(医)高須会 高井病院/(医)徳洲会 六地藏総合病院/エームサービス株/尾家産業株/大阪シティ信用金庫/株赤ちゃん本舗/株アクトワンヤマイチ/株池下設計/株関西みらい銀行/株キャリア/株近鉄リテール/株中京医薬品/株東京インテリア家具/株百五銀行/株ホテルニューアワジ/株ロマンズ小杉/キヤノンアネルバ株/京セラドキュメントソリューションズ株/京都機械工具株/京都中央信用金庫/京都農業協同組合(JA京都)/近鉄不動産株/近鉄日本鉄道株/近鉄ファシリティーズ株/京阪ホテルズ&リゾート株/コイズミファニテック株/(公財)天理よろづ相談所病院/(社福)協同福祉会 あすなろ苑/住友林業ホームテック株/セキスイハイム近畿株/積水ハウス株/総合警備保障株/大木建設株/大和ハウス工業株/タカラスタンダード株/立川ブラインド工業株/東建コーポレーション株/(独)国立病院機構 近畿グループ/ナビオコンピュータ株/奈良県農業協同組合(JAならけん)/奈良信用金庫/野崎印刷紙業株/パナソニックエイジフリー株/パナソニックリビング近畿株/フジバングループ本社株/明治安田生命保険相互会社/大和信用金庫/わらべや日洋食品株 ほか

【公務】

法務省 矯正局 大阪矯正管区(法務教官)/東京都特別区(行政職)/堺市役所(行政職)/和歌山県庁(行政職)/奈良市役所(行政職)/大阪府庁(建築職)/奈良県庁(建築職)/大阪府警察本部/奈良県警察本部/和歌山県警察本部/大阪市消防局 ほか

【教育】

大阪市教育委員会(中学校・国語)/奈良県教育委員会(栄養教諭)/愛知県教育委員会(小学校教諭)/大阪市教育委員会(小学校教諭)/大阪府教育委員会(小学校教諭)/京都府教育委員会(小学校教諭)/千葉県教育委員会(小学校教諭)/奈良県教育委員会(小学校教諭)/兵庫県教育委員会(小学校教諭)/広島県教育委員会(小学校教諭)/北海道教育委員会(小学校教諭)/三重県教育委員会(小学校教諭)/生駒市(幼稚園教諭・保育士)/城陽市(幼稚園教諭・保育士)/天理市(幼稚園教諭・保育士)/香芝市(保育士)/橿原市(保育士)/岸和田市(保育士)/神戸市(保育士)/精華町(保育士)/大和郡山市(保育士) ほか

Career Report

内定者インタビュー

コロナ禍での学生生活だったので、早めに情報収集を始めた方がよいだろうと、2年生の冬ごろからキャリアセンターに通い始めました。仕事を知るために、業界を絞らずWebや対面のインターンシップや学内合同企業説明会(当時はオンライン開催)にも積極的に参加しました。

そんな中、就職活動での指針となったのは、「就職力・自己開発ゼミナール(自己ゼミ)」の受講です。「自己ゼミ」のアドバイザーの方にはいろいろと相談に乗っていただき、本当にお世話になりました。参加学生の目的意識も高く、そんな人たちと対面で情報交換できたのもありがたかったです。最初は自分がめざすべき道がわからずに、エントリーシート(ES)が通過しないことも多かったのですが、自己分析にかかる時間を増やし、キャリアセンターにESを添削してもらってか

らは、とんとん拍子に内定を頂くことができました。

ゼミでは経営理念を研究されている田中雅子教授に師事し、企業のトップを訪問してインタビューするといった得難い経験もさせていただきました。リアルな企業の視点を知ることができたこと、インタビュー前に下調べをする習慣がついたおかげで、就職活動の際の企業研究にも生かされたように思います。

就職活動で、後輩の皆さんにアドバイスできるとしたら、情報収集はなるべく早めにすること、自分のペースを崩さないようにするということでしょう。長丁場となる就職活動では、息抜きも必要です。自分は両親がほとんどの距離感で接してくれていたのですが、それも気楽でよかったのかなと思います。自分の将来は自分で決めるという気概は持ちつつ焦らずにがんばってほしいですね。



内定先 京セラドキュメントソリューションズ株
経済経営学部 経済経営学科 4年
白崎 智志さん



Tezukayama Career Support

就職支援の取組み

キャリアセンターでは、学生1人ひとりが「実学教育」を通じて主体的に行動し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

学生が自らの意思で進路選択・就職決定ができるよう多種多様なサポートプログラムを実施するとともに、個人の希望やニーズや就職活動の進捗状況に合わせてきめ細かい支援を行っています。

100社を超える優良企業が集結 4年ぶりに対面での学内合同企業説明会を開催

学内合同企業説明会



4年ぶりに対面での開催となった学内合同企業説明会。2月7日～22日の間の7日間にわたり行われ、幅広い業界から多くの優良企業が東生駒キャンパスの「まほろば」に集結しました。本学と懇意にしている企業も参加していることもあり、毎年、多数の学生がこの説明会をきっかけとして内定を獲得しています。企業ブースでは、人事担当者の説明に熱心に耳を傾け、真剣な面持ちでメモを取る学生の姿が見られました。

2月14日と15日には、学園前キャンパスで学内合同業界研究セミナーが行われ、管理栄養士職を募集する食品会社など、学園前キャンパスの学科の専門性に応じた企業が集まりました。

学内合同企業説明会参加企業(2025年卒対象)実績一覧(一部抜粋)

アラマークユニフォームサービスジャパン 株/いすゞ自動車近畿株/(一社)日本自動車連盟(JAF) 関西本部/大阪ガスセキュリティサービス株/大阪広域水道企業団/大阪シティ信用金庫/大阪府警察/株エービーシー商会/株ガイアート/株近鉄・都ホテルズ/株近鉄リテール/株サーベイリサーチセンター/株JALナビア/株ジェイアール西日本総合ビルサービス/株トヨタレンタリース大阪/株奈良ホテル/株南海国際旅行/株南都銀行/株西原衛生工業所/株ニチベイ/株ロマンズ小杉/京セラドキュメントソリューションズ 株/近畿日本鉄道株/近鉄ファシリティーズ株/近鉄不動産株/近鉄保険サービス株/京阪ホテルズ&リゾート株/高圧ガス工業株/小西医療器株/サントリービバレッジソリューション株/市民生活協同組合ならこープ/シャープマーケティングジャパン株/杉本商事株/積水ハウス不動産関西株/全国共済農業協同組合連合会 奈良県本部/大和ハウス工業株/ダイワボウ情報システム株/大和リース株/立川ブラインド工業株/ナブコダ株/奈良県警察/奈良県農業協同組合/奈良交通株/奈良市役所/西尾レントオール株/日新火災海上保険株/日本インシュレーション株/日本生命保険(相)/パナソニックリビング近畿株/フランスベッド株/プリーストンタイヤサービス西日本 株/文化シヤッター株/丸二倉庫グループ(株)マルニコポーレーション/大和信用金庫/リコージャパン株 ほか

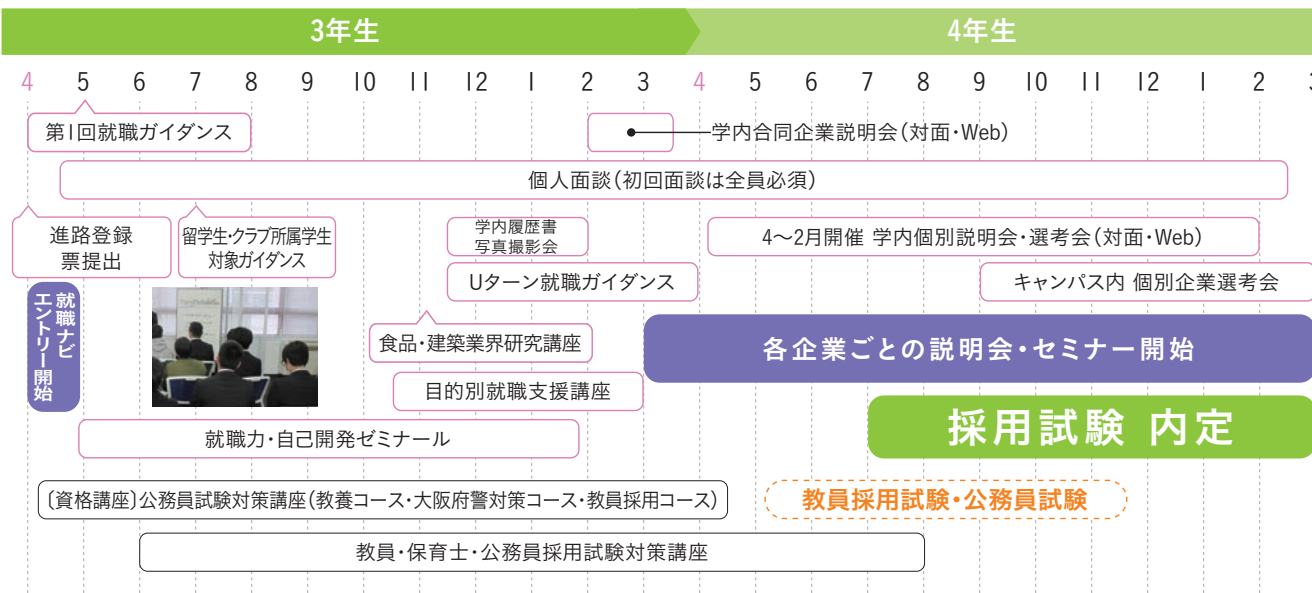
もう一度スケジュールを見直そう 3年生から本格化する就職活動

3年生

ゼミに入って卒業論文に向けた準備。自己分析や業界研究など就職活動も本格化。

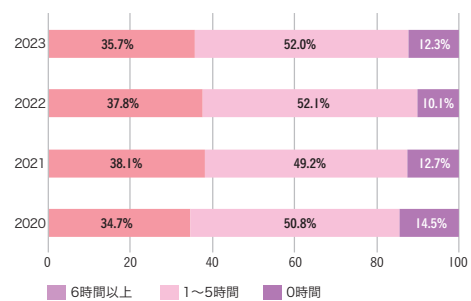
4年生

面接や採用試験の傍ら、卒業論文の作成。希望の進路をかなえて、残りの学生生活を楽もう。



IR REPORT

図3 授業開講期間中の1週間あたりの授業時間外の学習時間(ひとつ選択)

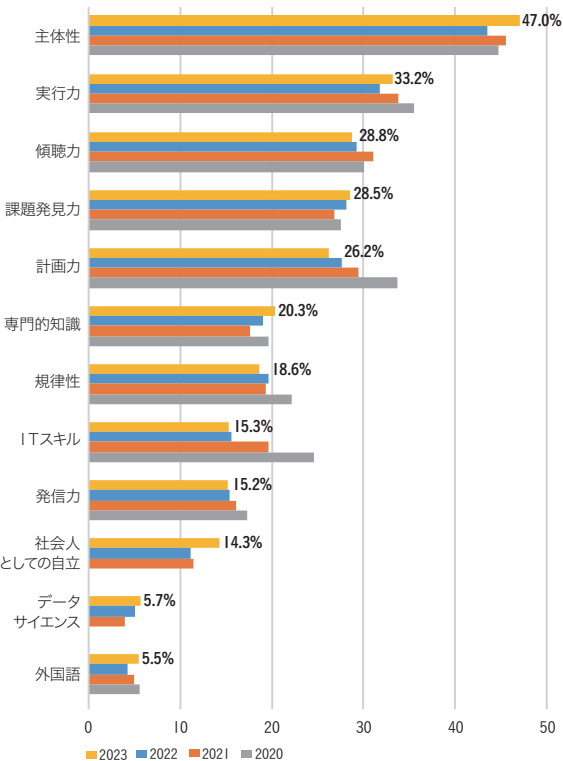


後期履修登録時の調査において、「授業開講期間中」1週間あたりの授業時間外の学習時間」を尋ねたところ、「6時間以上」と回答した学生の割合は僅かながら減少しており、最も多かった層は「1～5時間」(52.0%)の学生でした。図3。学習時間については全国的に少ないことが言われ、本学でも同様に課題となっていますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンライン授業が導入された後の2020年度後期履修登録時の調査結果と比較すると、「6時間以上」学習している学生は上

改善傾向を示す 授業時間「外」の学習時間

小テストの出題、レポート提出などが可能なほか、学生の自学自習ツールとしてだけでなく、アクティブ・ラーニング形式の授業にも活用されています。今後も学生の能動的な学習を促していくため、学習環境を整え支援していきたいと考えます。

図4 これまで身についたと思う「力」や「知識」(複数選択可)



後期履修登録時の調査において、「これまで身についたと思う力や知識」を尋ねたところ、上位3項目は「主体性」(47.0%)、「実行力」(33.2%)、「傾聴力」(28.8%)の順で昨年と同じ結果となりました。図4。一方、数値が低かったものは、「外国語」(5.5%)、「データサイエンス」(5.7%)、「社会人としての自立」(14.3%)で、昨年の下位3項目と同じでした。ただし、「外国語」、「データサイエンス」、「社会人としての自立」のいずれも、昨年よりも数値の上昇がみられました。この調査は学生の主観による回答をもとにしているため、新型コロナウイルスが学生に及ぼして

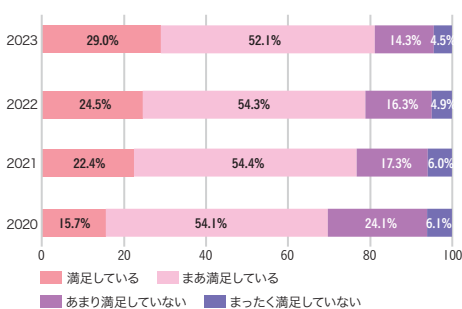
学生の成長実感、 コロナの心理的影響も考慮

回ります。この結果が一過性のものなのか、また要因は何であるかについて現時点で言及することは難しく、引き続き注視していく必要があります。

帝塚山大学への満足度は、 上昇の一途をたどる

後期履修登録時の調査において、「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねたところ、満足している「まあ満足している」と回答した割合の合計は8割を超え、この4年間で最も高い数値となりました。図5。2020年度後期履修登録時の調査では、帝塚山大学に対する満足度が落ち込みましたが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、大学が取り組んできた教育や学生支援が、学生の満足度の向上にも結びついていると考えられます。また、今年の5月以降は、コロナ以降初の制限のないキャンパスライフを送ることができた

図5 帝塚山大学への満足度(ひとつ選択)



ことも要因であると考えられます。紙面の都合上、全ての設問を掲載することはできませんでしたが、今回の調査結果について、今後、大学としてさらなる検証を重ね、学生の満足度向上につながる教育・学生支援の改善・充実に取り組んでいきたいと思います。最後になりましたが、10月に開催しました教育懇談会におきまして、参加された父母等の方々を対象としたアンケートを実施いたしました。ご協力いただきました皆様深く感謝いたします。ありがとうございました。

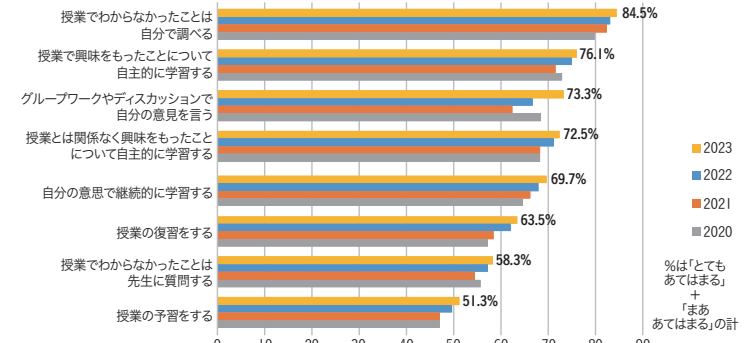
2023年度学習行動調査実施概要
●調査期間 前期:2023年3月22日～4月14日
後期:2023年9月15日～9月29日
●対象 前期:新2年生以上の在学生
後期:在学生全員
●調査方法 webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力
●回答者数・率 前期:2,379名(男子1,124名・女子1,255名)、97.5%
後期:3,091名(男子1,493名・女子1,598名)、91.7%
※IRレポートには含まれていませんが、学習行動調査は大学院生にも実施しています。
※前期と後期では設問が異なります。
※調査結果の比率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

世界中で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に5類感染症へ移行となり、社会全体でコロナ前のあり方に戻ろうとする動きが加速してきています。大学教育も2020年からこれまで、新型コロナウイルスの感染状況に応じて都度、変化を求められてきました。今回、分析結果を報告します学習行動調査は、前期・後期それぞれの履修登録期間中に実施し、学生は前の学期の学習行動を振り返る形で回答しています。同じ年度の調査でも、学期によって新型コロナウイルス感染症の影響の有無が分かれている場合があり、単純に比較できるものではありませんが、学生の学習行動の変容を読み解いてみたいと思います。

授業への取組姿勢・態度からみえる 学生の学習意欲向上

前期履修登録時の調査において、「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を選択形式で尋ねたところ、いずれの学習行動においても「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した学生の割合の合計は、この4年間で最も高い結果となり、学生の学習意欲向上が確認できました。図1。項目別にみると、上位3位の

図1 授業への取組姿勢・態度(複数選択可)

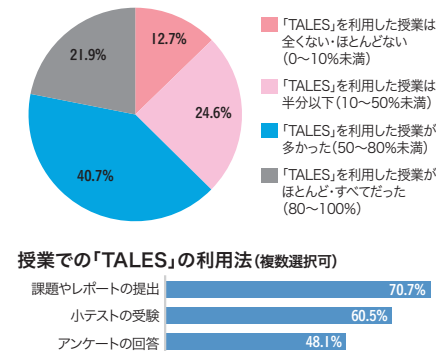


項目は「授業でわからなかったことは、自分で調べる」(84.5%)、「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」(76.1%)、「グループワークやディスカッションで自分の意見を言う」(73.3%)となり、1位、2位については昨年から変動はありませんでしたが、3位は昨年の「授業とは関係なく興味をもったことについて自主的に学

本学独自の学習支援システム「TALES」のさらなる活用へ

後期履修登録時の調査において、オンライン機能を搭載した本学独自の学習支援システム「TALES」(Tezukayama TALEs)の活用について、前期・後期それぞれの履修登録期間中に実施し、学生は前の学期の学習行動を振り返る形で回答しています。同じ年度の調査でも、学期によって新型コロナウイルス感染症の影響の有無が分かれている場合があり、単純に比較できるものではありませんが、学生の学習行動の変容を読み解いてみたいと思います。

図2 「TALES」を利用した授業の割合(ひとつ選択)



授業での「TALES」の利用法(複数選択可)



Active Learning Education Square)を利用した授業(予習・復習含む)の割合」を尋ねたところ、「TALES」を利用した授業が「多かった」(50～80%未満)、「ほとんどすべてだった」(80～100%)と回答した割合の合計は6割超になり、昨年度よりも増加しました。図2。また、授業で「どのように「TALES」を利用したか」を尋ねたところ、最も多かったのは「課題やレポートの提出」(70.7%)、次いで「小テストの受験」(60.5%)、「アンケートの回答」(48.1%)の順となりました。本学では、「TALES」をオンライン授業だけでなく、対面授業においても積極的に活用することとしています。「TALES」は、講義資料の配信や、

学習行動調査からみる帝塚山大学生

※ IR(Institutional Research インスティテューショナル・リサーチ)とは、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

『大学通信帝塚山』に毎号掲載している本頁「IRレポート」は大学ホームページでもコンテンツとしてまとめています。
(URL)
<https://www.tezukayama-u.ac.jp/disclosure/ir/>



奈良学への招待



古代の史料を眺めていると、ときどき、あれっと思うものに出合います。「古鯖」を伊予国（愛媛県）から税として平城京に送ったという荷札が平城京跡から何点か出土しています。古い鯖とはなんだろうかと気になって少し調べてみました。鯖は足の早い魚ですが、この「古鯖」は、税として都に送られているのですから、古くなった鯖のほずがありません。ヒントはその荷札に半身二〇〇本を籠に入れていると記されていることで、その記述から「古鯖」は塩鯖のようなものではなく、乾燥したものであったことが推定できます。今という鯖節のようなものが解釈として浮かびます。

平城京の鯖

文学部 日本文化学科 教授 鷲森浩幸

東大寺関連では鯖を売る老人の物語も知られています。聖武天皇がその老人を法会の講師に召し、老人が売っていた鯖を経台に置いたところ、その鯖がお経に変化したという話です。お経に形を変えるからには、鯖がお経を想像させる形をしていなければなりません。そのことから、この鯖も鯖節のようなものだったと推測できます。

また、「古」くない「鯖」を能登（石川県）から平城京へ送ったという国宝の荷札があります。京都へ運び込まれた若狭の塩鯖は有名ですが、能登から平城京にも塩鯖が運ばれたのだろうか、さまざまな想像を呼び起こす古代史料であるといえます。

所蔵品紹介

上衣（東こぎん）

江戸時代頃から、農民の仕事着として麻や木綿の衣服を着用することが一般的になります。特に青森県・津軽地方では「こぎん刺し」と呼ばれる美しい刺繍が施された、麻製の衣服を身に着けて農作業をする姿が昭和初期頃まで見られました。

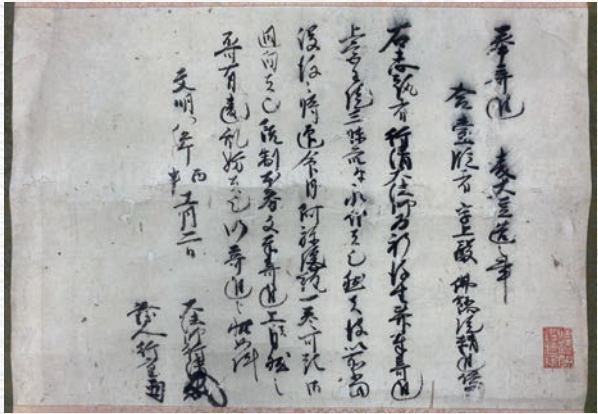
寒冷な東北地方では綿花の育成ができず木綿が入手しづらいことや、享保9年（1724）に弘前藩から農家倭約分限令が出され、木綿の着用が禁止されていたこともあり、庶民の衣類は麻織物に限定されました。こうした環境の中で人々は、限られた布を大切に使うために、衣服に細かな刺繍を施し、防寒性と耐久性を高める工夫をしました。



文学部 日本文化学科 講師 西連寺匠

写真は本学が所蔵するこぎん刺しの上衣（東こぎん）です。こぎん刺しは地域によってデザインが異なり、本品は青森県中南部で製作されたものであることが分かります。裾や袖の糸を見ると手績み糸であることが分かり、織目の状態や地域性、時代などから天秤（てんひん）機で織られたものと推測されます。

また、継ぎ当での痕跡がいくつも見られることから、大切に着用していたことも推察でき、日本人のものを大切にする文化を伺うことができる貴重な資料といえます。



「文明八年(1478)十一月二日大法師行清寄進状」(帝塚山大学蔵)

本文書は大法師行清が後生菩提を願い、上殿に所在する仏餉院精進供田一段を上宮王院三昧衆に寄進したものです。自身の命日にはこの地の収穫物を財源として、供養のために阿弥陀經一巻を書写してほしいとも記されています。寄進地が所在する上殿は現在の斑鳩町法

本学が所蔵する「文明八年（1478）十一月二日大法師行清寄進状」という古文書の伝来の一端を、文学部の専門科目「古文書実習」（花田卓司准教授・専門：中世政治史・制度史）において、学生の一人が明らかにしました。令和6年（2024）2月末日発行の紀要「奈良学研究」に花田准教授と学生の共著として論文が掲載されました。

隆寺西三丁目内の小字で、上宮王院は法隆寺東院を指すことから、もとは法隆寺文書であったと考えられます。

本文書の右下に押されていた縦2.7cm×横2.0cmの朱印に着目した学生が「蔵書印データベース検索システム」で検索したところ、蔵書印主は吉田聆清閣、印文は「聆清閣鑑蔵記」であることが判明しました。

文学部日本文化学科
花田卓司 准教授



受賞関係

河口充勇教授の著作 『東アジアの家族企業と事業承継—その共通性と多様性』が 2023年度 中小企業研究奨励賞準賞を受賞



文学部日本文化学科の河口充勇教授（社会学、社会調査）が執筆した『東アジアの家族企業と事業承継—その共通性と多様性』（實少杰氏・洪性奉氏との共著、文眞堂、2023年）が2023年度中小企業研究奨励賞準賞に選ばれました。

中小企業研究奨励賞は商工中金の創立40周年を記念して、1976年に創設された歴史と権威のある賞です。中小企業に関する優れた図書または定期刊行物に発表された論文を表彰するもので、2023年度は、2022年8月1日から2023年7月31日までに刊行された図書または論文を対象とし、67点の応募がありました。

本著では、似ているようで異なる東アジアの事業承継をテーマに、日本・中国本土・台湾・香港・韓国の家族企業のケーススタディを通して、事業承継そのものの構造とそれを取り巻く社会構造、そして発展可能性について論じられています。（全266ページ、税込3,300円）



株式会社サンリオによる 乳幼児向け本格的英語教材 「Sanrio English Master」で 黒川愛子准教授がTPR※を監修

教育学部こども教育学科の黒川愛子准教授（専門：外国語教育）が、株式会社サンリオが開発した乳幼児向けのAll English教材「Sanrio English Master」内のTPR（全身反応教授法）にかかわるコンテンツを監修しました。

「Sanrio English Master」は、「英語ができる」だけでなく「英語で考えられる」子どもを育てるために、科学的知見に基づいてキャラクターや教材が設計・開発された本格的英語教材。フォニックスやTPR（全身反応教授法）などの効果的な学習法を取り入れつつ、アプリや知育玩具での遊びを通じて楽しみながら英語を身につける工夫が凝らされています。また、この教材のオリジナルキャラクターのEddy（エディ）のほか、サンリオでおなじみのキャラクターも登場し、飽きずに英語を学ぶことができます。

詳しくは、<https://english.sanrio.co.jp/>をご覧ください。



オリジナルキャラクターのEddyと一緒に

※「Total Physical Response」の略称で、幼児が母国語を習得する過程に応用した「身体を動かしながら」外国語を習得していく指導法のこと。

© '23, SANRIO CO., LTD.
APPR. NO. E640001

■ 本学教員の執筆図書紹介 ■

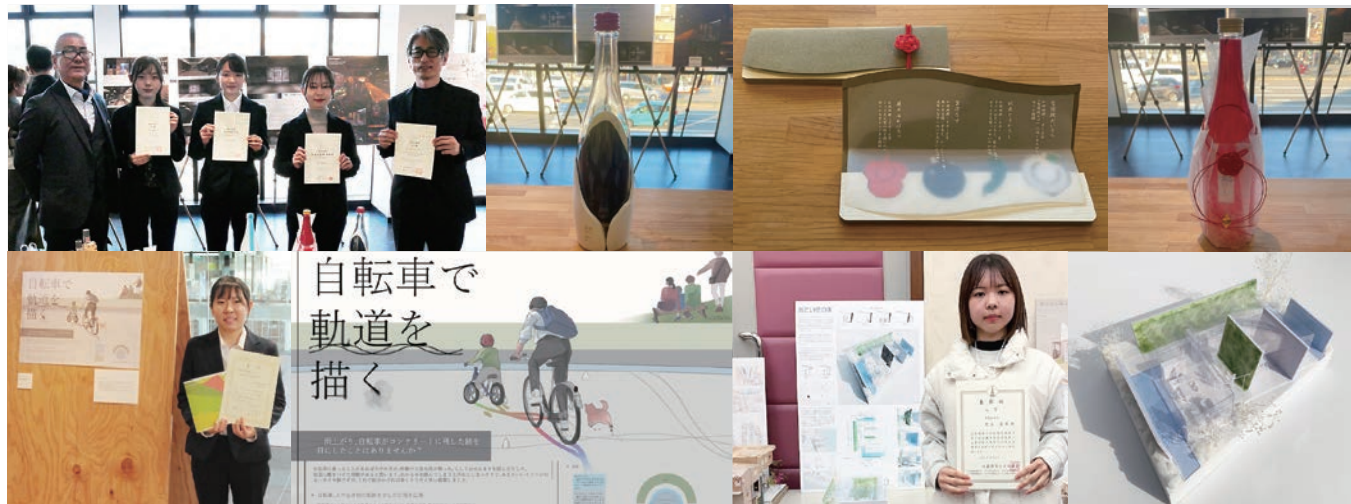
執筆図書一覧

本学教員の著作は、教育研究活動成果の公開を目的として、東生駒キャンパス図書館本館と学園前キャンパス図書館分館の「業績図書」コーナーに配架されています。

(発行年順)

教員名	所属／役職	分類	書名	出版社	発行年月	価格
杉崎 貴英	文学部日本文化学科/講師	分担執筆	いしかわの豊場：中世の祈りとみほとけ：令和5年度夏季特別展	石川県立歴史博物館編集	2023年7月	2,000円＋税
中地 展生	心理学部心理学科/教授	分担執筆	子どもと家族への心理的支援(家族心理学年報 / 日本家族心理学会編集, 41)	日本家族心理学会編	2023年9月	3,200円＋税
関根 俊一	名誉教授	監修	金峯山の遺宝と神仏：二〇二三年秋季特別展	Miho Museum編	2023年9月	3,000円＋税
清水 昭博	文学部日本文化学科/教授	分担執筆	権原考古学研究所論集 第18	権原考古学研究所編	2023年9月	22,000＋税
関根 俊一	名誉教授	監修	紀州明恵上人伝：生誕850年記念特別展	和歌山県立博物館編	2023年10月	2,000円＋税
徳永 加代	教育学部こども教育学科/准教授	監修	言の葉紙しばいシリーズ3(3人目のおじいちゃん、おいしいハンバーグをつくるには、わたしのかべをかんがえる、私の行動は未来への第一歩、失敗から成功へみちびいてくれた人)	京都柿本書房	2022年12月	2,000円＋税 (セット) 10,000円＋税

外部コンペティションで続々と入賞 居住空間デザイン学科の学生作品



公益社団法人 京都デザイン協会主催の「京都デザイン賞2023」で、居住空間デザイン学科の学生が入賞と入選を果たしました。

京都デザイン賞は、京都の伝統と文化を守りながら、新たなデザイン手法を用いて、新しい京都のデザイン創出を図る作品を発見、顕彰し、その良さを広報して流通に乗せることを目的に作品を公募するデザインコンペティション。今年で15回目の開催で、居住空間デザイン学科では2020年からコンペティションに参加しはじめて今年で4年連続の入賞・入選という好成績を残しています。

今年は、お酒のラベル・パッケージデザインで藤本愛美さん(居住空間2年)が「伏見の清酒・都鶴賞」を受賞、同じくお酒のラベル・パッケージデザインで小笠原千恵さんが(居住空間3年)入選、新しい京の和文具デザインで松田紗弥さん(居住空間4年)が「京の和文具賞」を受賞しました。さらに、教員の深谷准教授(専門:プロダクトデザイン)がプロダクトデザイン・クラフト・雑貨デザイン部門で入選しました。

11月26日に、ホールKeiryu・ふふふあん(京都市東山区)において授賞式が行われ、学生を指導した大里浩二教授(専門:グラフィック・デザイン)、指導とともに入選も果たした深谷友貴准教授(専門:プロダクト・デザイン)も列席し、学生にねぎらいの言葉をかけていました。

また、インテリアや建築分野のコンペティションでも学生が入選するといううれしいニュースも舞い込んできました。

4年ぶりに対面再開！プレ実習としてのリフレクション実習



のために定められた実習ですが、教育学部ではそれ以外にも授業やボランティアなどの機会を通じて子どもにかかわることができる機会を設けています。そのひとつがリフレクション実習。これは1年の後期に学生が初めて乳幼児とのかかわる場で、

学園前キャンパスの18号館にある子育て支援センター「まつぼっくり」では、地域

教育学部の学生は多くの実習を経験します。ほとんどの学生が保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の3免許取得をめざすので、保育所と施設での保育所実習、小学校または幼稚園での教育実習にそれぞれ4週間を費やし、合計で8週間参加します。これは資格取得

日本インテリアプランナー協会が主催する「第5回デザインコンペティション2023 ビエンナーレツナグ+DESIGN」では、上野朝絵さん(居住空間3年)の作品「自転車軌道を描く」が「協賛企業賞」に選ばれました。12月2日、京都美術工芸大学東山キャンパス(京都市東山区)において、作品展示と表彰式が行われました。上野さんの作品は、学外の専門家・選考委員から「デザインの的にも機能的にも考えられたとても印象深い作品」として高く評価されました。

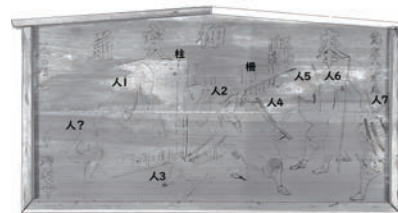
さらに、近畿地方の大学における住宅設計課題を対象とした「第3回近畿学生住宅大賞」で、児玉有希さん(居住空間2年)の作品「雨どい壁の家」が入賞。大阪府建築建保会館(大阪市中央区)において、12月2日、プレゼンテーションと展示を行いました。児玉さんの作品は、一般的な雨どいの代わりに傾斜した雨どい壁を設け、雨の時間を楽しむことのできるように作られた壁面で構成されている住まいの提案です。プレゼンテーション後は審査員である島田陽さん(建築家)から「きれいなコンセプト」とのコメントを頂きました。

入選作品のほとんどが3年生や4年生の手によるものの中、児玉さんは数少ない2年生です。児玉さんの来年以降のさらなる成長と、続く後輩たちの頑張りに期待しています。

●写真上段 左から順に、京都デザイン賞2023表彰式での記念撮影。左端は大里教授で右端が深谷准教授、藤本愛美さんの「伏見の清酒・都鶴賞」受賞作品、松田紗弥さんの「京の和文具賞」入賞作品、小笠原千恵さんの酒ラベル・パッケージデザイン入選作品●写真下段 左から順に上野朝絵さんとその作品、児玉有希さんとその作品

の子育て支援のための催しや講座が行われているだけでなく、教育学部の学生の実習の場としても活用されています。「まつぼっくり」で開かれる「つどいの広場」で、学生たちは遊びに来ている乳幼児と保護者にかかわる機会を持ちます。最近の学生は小さい子どもと接することが少ないうえ、保護者への対応にも慣れていないこともあって、実習の時間は1時間ほどではあるものの緊張を強いられるひとときであるようです。

実習前には事前指導を受け、子どもとかかわる際の注意点やポイントを確認します。実習後には、自分が子どもや保護者にどのようにかかわっていたのかをビデオ録画を確認し、「振り返り」を行います。リフレクション実習を通じて子どもとかかわる基本姿勢を身につけることで、次の段階である教育実習での実践につなげていくのです。



今井堂天満神社で最古の絵馬の図像を復元 浮かび上がる義経と今井兼平の因縁？

帝塚山大学考古学研究所と文学部の学生および人文科学研究科の大学院生が2022年度に実施した今井堂天満神社(奈良市日笠町7-10)が所蔵する184点の古絵馬調査において見つかった寛政6(1794)年銘絵馬の図像を復元し、附属博物館で開催された第41回特別展示『田原の絵馬ー奈良市日笠町



今井堂天満神社の絵馬」で12月12日から23日まで限定公開しました。

この絵馬は、本学の調査まで同社で最も古いとされていた文政元(1818)年のものよりもさらに古い寛政6(1794)年銘のもの。風化が進んでいたため、赤外線撮影でも図像が読み取ることができず、かすかに残る線や図像の細かな凹凸を確認しつつ図化を試みました。その結果、絵馬に描かれたのは、歌舞伎の『勧進帳』などに登場する武蔵坊弁慶と源義経による「安宅の関」の場面であると仮説を立てて復元を進めました。

一方で、絵馬の左端に配置された人(写真左下の左端)と思しき図像については謎が残っていました。打ち据えられる義経を視線を向けず、正面向きに座っていることから、能や歌舞伎などに登場する亡霊のような存在なのではないかと推測。今井堂天満神社にまつられ伝承では奈良で義経を討とうとしたとされる木曾義仲の乳兄弟、今井兼平が絵馬に描かれていると結論づけました。

また、12月16日、第506回市民大学講座「田原の絵馬ー奈良市日笠フシダ遺跡と今井堂天満神社」において、帝塚山大学考古学研究所所長・附属博物館館長の清水昭博教授(文学部)が同社における古絵馬調査と奉納絵馬の制作、および寛政6年銘絵馬の図像復元に関する成果報告を行いました。会場に詰め掛けた歴史ファンは絵馬調査から浮かび上がる不思議な物語に熱心に耳を傾けていました。

(写真右) 復元された寛政6年銘絵馬。図化と彩色は博物館庶務の西村はるかさんが手がけた。
(写真左上) 第506回市民大学講座「田原の絵馬ー奈良市日笠フシダ遺跡と今井堂天満神社」で清水昭博教授による報告が行われた。
(写真左下) 絵馬の書き起こし図。線はほとんど見えず、図像化は困難を極めた。「安宅の関」が題材であると推測してからは、同様のモチーフの絵をを参照しつつ線画を起こした。

小学生の不登校やいじめを「心理教育」で未然に防ぐ シンポジウムで学生が実践報告



はじめとする100名近い参加者が、学生による実践報告に聞き入りました。

同シンポジウムは、「心理教育を活用した予防的支援事業」の一環として実施されたもの。心理学部が令和4年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」(奈良県主催)の公開コンペで最優秀賞を受賞した政策提案をもとに事業化されました。初年度にあたる2023年度は、奈良県内の小学校5校を対象にした「不登校・いじめ予防支援プログラム」を約20人の学生が実践しました。

今年度の事業の特徴は、各校が抱える課題解決につながるようなオーダーメイドのプログラムにあります。学生は対象の5校それぞれにヒヤリングを行い、現場の状況に応じた異なるテーマのプログラムを考案して小学生に向き合いました。シンポジウム当日に登壇したのは、福西由未さん、野口香愛さん、山中愛美さん

(いずれも心理3年)の3人。外部講師による研修を受け、中地展生教授や山口祐子教授らに指導を仰ぎながら、5校の要望に応えるプログラムを作り上げていったこと、自信作を持って小学校の先生相手のリハーサルに臨んだものの、毎日子どもに接する教育のプロならではのご意見を頂き、内容の再考を余儀なくされたことなど、数々のエピソードが紹介され、試行錯誤の末に完成したプログラムであることが報告されました。臨席した専門家や教育関係者からは、「心理教育の重要性は増していく一方なので、この事業を通じてその意義を伝えてほしい」といった取組みに対する応援のコメントを頂きました。

2024年度も本事業は継続され、小学校での心理教育の実践とともに、他大学で心理学を学ぶ学生との協働なども視野に入れた活動を推進していく予定です。

(写真左) シンポジウムで報告する心理学部の学生。アンケート結果なども公表した。
(写真右上) 外部講師による研修の様子。各校担当ごとに別れプログラム内容を協議した。
(写真左下) 小学校での心理教育プログラム実践の様子。子どもたちは異なる価値観を学ぶ。



(上)経済経営学科の個別相談の様子
(下左)学科の教育の特徴を説明する法学科の教員
(下右)参加者へのお土産は、食物栄養学科の学生が「はとむぎの杜」と開発したヴィーガンスイーツ。パッケージは居住空間デザイン学科の学生が手がけた。

保護者アンケートから(抜粋) 一部のご意見・ご感想をご紹介します。

- 学生生活の様子がよくわかった(日本文化3年)
- キャンパスツアーで学校の雰囲気がかがえてよかった。(法3年)
- 一人暮らしで心配していたが、大学の色々な先生方が気にかけてくださっているのが心強く感じた(法3年)
- 就職活動への心構えなどについて教えていただけてありがたかった。(心理3年)
- 成績や単位などが把握できるのがよい。(食物栄養2年)
- 先生方から授業内容を詳しく聞くことができ、子どもがどのような勉強をしているのがよくわかった。(居住空間1年)
- とても丁寧に相談に乗ってもらえた。(こども教育1年)
- 就職活動についての説明会を開催してほしい。(経済経営3年)

令和5(2023)年度前期学長表彰



9月29日、東生駒キャンパスで令和5(2023)年度前期の学長表彰の表彰式を行いました。

「学長表彰」とは、学業や優れた活動により社会的に高い評価を受けるなど、本学の名誉を高めることに貢献した学生または学生団体に学長が表彰する制度で、「学長賞」と、それに次ぐ「学長奨励賞」の2つの賞が設けられています。

今回、学長賞を受賞したのは、文学部日本文化学科と人文科学研究科からなる、なら歴史芸術文化村開村1周年記念展「山辺の道」協力プロジェクトチームです。民俗学を専攻する同チームの学生と院生は、なら歴史芸術文化村開村1周年記念展「山辺の道」(2023年3月21日～5月28日)の展示・解説に協力しました。また、常設展示に併せて開催されたイベント「永井さんの生活画から推しの1枚を選んでみた」(2023年5月13日～5月28日)では、天理市福住町出身の永井清繁氏の生活画のパネルを制作・展示し、来場者に解説を行いました。

これらの取り組みが、なら歴史芸術文化村との連携を深めるとともに、本学が提唱する「奈良学」を広く一般に伝えることに寄与したとして、この度の受賞となりました。

父母等の皆さまへ

令和5(2023)年度教育懇談会を東生駒キャンパス、学園前キャンパスで開催

本学では、学生の修学や大学の支援状況について父母等の皆様に理解をさらに深めていただく機会として、教職員と直接懇談できる「教育懇談会」を毎年開催しています。

10月22日、令和5(2023)年度同懇談会を東生駒キャンパスと学園前キャンパスで同時に実施しました。東生駒キャンパスでは、文学部・経済経営学部・法学部、学園前キャンパスでは、心理学部・現代生活学部・教育学部に在籍する学生の父母等の皆様を対象に開催し、79家庭の方々にお越しいただきました。

各学科で、教育方針や学生支援内容について専任教員から説明があり、学科の主要科目やプロジェクトを中心とした特色ある取組みなどが一つひとつ丁寧に紹介されました。学科によっては、在学生自身がプロジェクトや留学などの体験を発表するなど、充実したキャンパスライフをリアルな声で届けました。

個別面談では、学生の成績や単位のほか、キャンパスライフ全般に関する父母等の皆様からの相談を教員が受け、希望者には施設ツアーが行われました。また、別室にはキャリアセンターのブースを特別に設け、就職に関する相談にキャリア担当職員が応じました。

本学はこれからも、「学生への教育・支援がきめ細かい」大学をめざし、より充実した教育活動を展開してまいります。

令和5(2023)年度9月卒業式を実施しました



9月29日、令和5(2023)年度帝塚山大学9月卒業式が東生駒キャンパス「まほろば」で執り行われ、学長、副学長、学部長のほか教職員や保護者が見守る中、6学部17名が学び舎から巣立ちました。

奥村由美子学長は卒業生一人ひとりに卒業証書と学位記を授与し、続く式辞ではコロナ禍でのキャンパスライフに触れ、卒業生に向けて「対面とオンラインの双方の良さを適切に使いこなせる社会人になってほしい」と温かいはなむけの言葉を贈りました。

会場では、卒業生たちが写真撮影に興じ、笑顔でお互いの門出を祝い合う姿が見られました。

西山厚客員教授 瑞宝双光章を受章

西山厚客員教授(専門:仏教美術・美術史)が、令和5(2023)年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。

瑞宝章は、国家または公共に対し功勞のある者で公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた者に授与されるものです。西山客員教授は、京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士課程修了後、奈良国立博物館で学芸部長などを歴任。2014年4月に本学文学部教授として着任され、2019年4月からは本学客員教授として奈良と仏教を主題とした一般向けの講座などをご担当いただいています。

2024年1月18日には、受章を記念して「大仏さまと子どもたち」と題した講演を帝塚山大学東生駒キャンパスで行い、170名を超える一般市民が訪れました。

西山客員教授は、20年以上にわたって、小さな子どもたちに奈良の歴史文化、特に東大寺の大仏について伝える活動を続けられています。今回の受章記念講演では、その活動を振り返り、子どもたちとの心温まる交流について話されました。



「外国人留学生による日本語スピーチ大会」(奈良地域留学生交流推進会議主催)で、日本文化学科のワン・ユンシンさんが優勝



日本文化学科では、11月の帝塚山大学祭(虹色祭)で行われる「留学生スピーチコンテスト」に向けた「スピコンサポートプロジェクト」を立ち上げ、留学生のスピーチがよりよいもの、より伝わりやすいものになるよう、日本人学生がサポートしています。

このプロジェクトのサポートを受けたワン・ユンシンさん(日本文化1年・中国)が、虹色祭初日の11月18日に東生駒キャンパスで開かれた「第23回外国人留学生日本語ス

蓮花一己前学長・客員教授が交通栄誉章「緑十字銀章」を受章



蓮花一己前学長・客員教授(専門:交通心理学・産業心理学)が、第64回交通安全国民運動中央大会(主催:全日本交通安全協会、警察庁)で交通栄誉章である緑十字銀章を受章しました。同章は長年にわたり交通安全活動に尽力し、抜群な功績があった交通安全功勞者、優良安全運転管理者及び優良運転者に対し、その功績に応じて「緑十字金章」、「同銀章」、「同銅章」が贈られるものです。

蓮花客員教授はご専門の交通心理学による交通安全活動への功績を認められ、交通安全功勞者として推荐されて、この度の受章となりました。

2024年1月17日に文京区シビックホール(東京都文京区)で行われた中央大会には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下や岸田文雄内閣総理大臣らがご臨席され、「緑十字金章」と「同銀章」の受章者が表彰されました。



スピーチコンテスト(主催:本学国際交流委員会)」で優勝し、本学の代表として、奈良地域留学生交流推進会議主催の「外国人留学生による日本語スピーチ大会」に出場することが決まりました。

同スピーチ大会は12月22日に奈良女子大学を会場に行われました。大会の様子はZoomで配信され、スピコンサポートプロジェクトのメンバーがワンさんの雄姿を固唾を呑んで見守りました。

ワンさんのスピーチのタイトルは「関西弁でかまへん」。ワンさんは質疑応答にも流ちょうな日本語でよどみなく答え、1年生ながら他の5大学の実力者を押さえて、優勝の栄冠に輝きました。

消費量減少を食い止めよ! 若者に受ける「柿」メニューを開発

食物栄養学科の藤村太一郎教授(専門:食品加工学)のゼミでは、奈良県の特産品のひとつである柿の廃棄量が収穫量の3分の1にも及ぶ事実に着目し、柿を活用した商品開発に取り組んでいます。若者層の柿離れが消費量減少の要因のひとつと考えられるため、特に若者層に柿の魅力をアピールできるメニューの開発をめざしています。

昨年度は、石井物産株式会社と共同で、すっきりとしたライムの風味が特徴的な「柿ソース」を考案。そのソースを使ったスイーツなどをイベントで提供し、好評を博しました。今年度は、その柿ソースをさらに改良し、大和郡山城内の「番屋カフェ」の協力により、新メニューのナポリタンスバゲティ「ペンネ柿ポリタン」と「柿の葉シフォン」柿ソース添え」を開発し、10月から約2か月の間、同カフェで販売しました。

今回、番屋カフェで提供するメニューとして学生が最初に提供したのは、「柿のニョッキ」と「チュロスの柿ソース添え」。石井物産株式会社と番屋カフェの担当者から味や着眼点などに関しては合点を頂いたものの、飲食店で最も大切な「調理に手間がかからない」という点がクリアできず、商品化への壁の高さを学生は痛感することに。その後、意見交換を経て、パスタメニューと柿ソースそのものを楽しめるデザートというコンセプトを生かし、ナポリタンスバゲティとシフォンケーキのデザートプレートで企画を進めることとなりました。11月3日に開かれた「大和郡山城親子まつり」では、学生が番屋カフェの前でシフォンケーキを販売し、柿の魅力をPR。多くの来場者に購入いただきました。



EVENT & INFORMATION

SEMINARS 開催予定のイベント

帝塚山大学奈良学総合文化研究所 公開講座「名品・名作誕生 XIX」

2月3日(土)
蔵書印から探る帝塚山大学所蔵文書の伝来(仮)
花田 卓司 准教授(帝塚山大学 文学部)

2月10日(土)
嵯峨清凉寺釈迦如来像の説話とその展開
中川 真弓 准教授(帝塚山大学 文学部)

2月17日(土)
大安寺本尊と薬師寺本尊—平城京の横綱丈六仏東西対決—
中野 聡 氏(龍谷大学・佛教大学 講師)

3月2日(土)
香雪美術館所蔵「稚児観音縁起」をめぐる諸問題(仮)
多川 文彦 氏(興福寺国宝館 学芸員・帝塚山大学 非常勤 講師)

【時間】 各日とも10:30～12:00(受付は10:00～)
【場所】 帝塚山大学 東生駒キャンパス1号館1301教室
(但し、3月2日のみ1101教室)
【受講料】 無料
【受講料】 各回80名(申込先着順)
【お問い合わせ】 帝塚山大学 奈良学総合文化研究所
TEL 0742-48-9192(水・木・金 9-12時/13-17時)
naragakuken@tezukayama-u.ac.jp

EXHIBITION

帝塚山大学織物講座修了展

本学は、社会人の学び直しの一環として、「織物講座初級編」を開講しています。
本講座は、織物の歴史や複数の織物技術の習得を通じて、奈良の地域振興の活性化に貢献する人材を育成することを目的に開講するもので、講座修了者には、履修証明書「帝塚山大学織物マイスター初級」が発行されます。
本講座受講生によるランチョンマットやタペストリー、バッグ、着物などの多彩な作品を展示します。

【展示／開催期間】 2024年3月15日(金)～19日(火)
【時間】 10:00～16:00(但し、初日のみ13:00～16:00)
【場所】 東生駒キャンパス2号館2101教室
【観覧料】 無料



【2024年度下半期】市民大学講座 ※Zoomによるオンライン講座

2月10日(土)
発掘された正倉院宝物の世界～近年の中国考古学の成果から～
牟田口 章人 氏(帝塚山大学 客員教授)

2月24日(土)
逆臣から地藏菩薩へ—物部守屋イメージの変遷—
伊藤 純 氏(帝塚山大学非常勤講師)

3月9日(土)
市民大学ウォーク⑨「山の辺の古代寺院(後編)」
清水 昭博 教授(帝塚山大学文学部・考古学研究所 所長・附属博物館 館長)

3月23日(土)
古代・宮居に関わる呪術的植物 —呪(まじない)と予言—
甲斐 弓子 氏(帝塚山大学 考古学研究所 特別研究員)

【開催時間】 各日とも14:00～15:30
【場所】 帝塚山大学 東生駒キャンパス 1号館1301教室
(奈良市帝塚山7-1-1)
【受講料】 無料
【定員】 各回100名(申込先着順)
※各講座で受付開始日が異なりますのでご注意ください。
【申込方法】 帝塚山大学 附属博物館HP
(<https://www.tezukayama-u.ac.jp/museum/>) から
【お問い合わせ】 帝塚山大学 考古学研究所
TEL 0742-48-9700/FAX 0742-48-9793
arch@tezukayama-u.ac.jp

NOTICE

帝塚山大学 織物講座 (初級編)2024

この織物講座は、社会人の学び直しの一環として、織物の歴史や複数の織物技術の習得を通じて、奈良の地域振興の活性化に貢献する人材を育成することを目的に、Ⅰ(前期)とⅡ(後期)に分けて、各期14回・半期60時間超の内容が異なる講座を開講しています。
平成29年より続く本講座は、令和5年度から通年での受講に加えて半期ごとでも受講できるようになりました。本講座修了時には、学校教育法第105条に基づいて、半期ごとに履修証明書が発行されます。

【講師】 植村和代(帝塚山大学名誉教授)・岡本由実子 他
【日時】 2024年5月14日(火)～2025年2月18日(火)
(全28回)
前期:5月14日(火)～10月1日(火)
後期:10月22日(火)～2025年2月18日(火)
※後期は、前期修了者のみ受講可能。
※通年でのお申込後に半期への変更や返金はできません。また、前期のみをお申込後に通年への変更もできません。
【時間】 10時00分～15時30分(休憩含む)
【開催場所】 帝塚山大学 東生駒キャンパス
【定員】 8名(最低人数を満たさない場合、不開講)
【受講料】 【通年申込】18万円、
【半期申込】(各期)10万円(税込、教材費含む)
【申込方法】 大学HPから申込用紙をダウンロード後、FAXでお申込み
【申込期限】 (通年及び前期)4月22日(月)必着
(後期)9月24日(火)～10月4日(金)
【お問い合わせ】 総務課 織物講座事務局
TEL 0742-48-9192(平日9 時～17 時)
FAX 0742-48-9135
〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

FINANCIAL REPORT

令和4(2022)年度決算について(報告)

帝塚山大学を設置する学校法人帝塚山学園の令和4(2022)年度決算が、2023年5月26日開催の理事会において承認されましたので、概要をお知らせします。



【収入】
収入の主たる科目は次のとおりです。
・学生生徒等納付金 対前年度266百万円の減
・手数料 対前年度8百万円の減
・寄付金 対前年度144百万円の増
・経常費補助金 対前年度67百万円の増
・雑収入 対前年度63百万円の増
収入全体としては前年度と比較して274百万円の減少となりました。その主な要因は、志願者数・入学者数の減少により学生生徒等納付金が減少したこと及び、学園創立80周年記念寄付金募集の終了などにより寄付金が減少したことによります。

【支出】
支出の主たる科目は次のとおりです。
・人件費 対前年度53百万円の増
・教育研究経費・管理経費 対前年度60百万円の増
支出全体としては前年度と比較して85百万円の増加となりました。その主な要因は、私学共済掛金率の改定及び退職給与引当金繰入額の増加により人件費が上昇となったことや、エネルギー価格の高騰による光熱水費の増加、学園前キャンパス16号館改修工事などによる修繕費の増加によるものです。

【収支差額】
経常収支差額は528百万円のマイナス、基本金組入前当年度収支差額は531百万円のマイナスとなり、前年度と比較して、支出超過額はそれぞれ378百万円、359百万円増加しました。そのうち、学園前キャンパス16号館改修工事に係る経費の増加は209百万円です。
令和5年(2023)度入試においては志願者数・入学者数とも減少となっただけでなく、小学校、幼稚園においても入学者が前年度より大きく減少する結果となりました。結果、支出超過額は直近3か年と比べて増加しています。「変化する時代に選ばれ続ける総合学園」をめざし、役員や教職員が協働して諸施策を確実に実行してまいります。

NEWS

第57回 帝塚山大学卒業式 第32回 帝塚山大学院修了式

令和5(2023)年度卒業式・修了式は、2部制で実施します。
【日時】 2024年3月22日(金)第1部9:30～、第2部13:30～
【会場】 帝塚山大学 学園前キャンパス 学園講堂
(奈良市学園南3-1-1)

①第1部
《心理学部・心理科学研究科 現代生活学部 教育学部》
9:30 開場・受付
10:00 卒業式
②第2部
《文学部・人文科学研究科 経済経営学部 経営学部 法学部》
13:30 開場・受付
14:00 卒業式
※最新情報は大学ホームページなどのご案内を確認するようにしてください。



訃報

本学名誉教授で元教養学部教授の石塚栄二先生が、2023年12月18日に逝去されました(享年97歳)。ご専門は図書館学及び出版学。
文部省図書館職員養成所をご卒業後、和歌山県立図書館、大阪市立図書館でのご勤務を経て、1976年4月、本学に着任。1982年に教授、1993年からは特任教授、1996年4月より名誉教授。学外的主要に、日本図書館研究会 名誉会員、図書館とまちづくり・奈良県・ネットワーク 代表(1996年～2018

年)など。
1979年に改定された「図書館の自由宣言」の起草委員を務められ、宣言の普及に尽力されるとともに、この改定を受けて1980年に制定された「図書館員の倫理綱領」の策定にもかかわられ、日本の図書館員の基本をなすこれらの文書の成立に寄与されました。
ご生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。





国際交流



両親も学んだ日本で

過ごしたかけがえのない日々

いつかは日本と中国の架け橋に



文学部 日本文化学科4年

ファン・カキンさん

上海(中華人民共和国)出身

上海からの留学生、ファン・カキンさん。
演劇部をはじめとする5つのクラブとサークルに参加し、留学生と日本人学生の交流会でも調整役を務めるなど、授業以外にも大学生生活を満喫するカキンさんに話を聞きました。

小さいころから日本のアニメに慣れ親しんでいたというファン・カキンさん。「休さん」や「カードキャプターさくら」などのアニメを中国語の吹き替えで毎週楽しみにしていたそうです。アニメがきっかけで興味を抱いた隣国の日本。いずれは外国で勉強したいと思っていたファンさんが、留学先の候補に日本を一番に挙げたのは自然な流れでした。「両親とともに日本で学んだ経験があったことも、日本への留学を大いに後押ししたそうです。

ミに所属しました。酒造会社を訪ねたり史跡を見学したりなどのフィールドワークを通じて、いろいろな人と交流できたことはとても刺激的だったとファンさんは振り返ります。文学部が独自に開講するキャリア支援科目「文学部の学びと将来設計」も印象的な授業のひとつだったとのこと。第一線で活躍される企業人から、自分の知らない分野の話聞いたのは貴重な体験だったと話してくれました。

そんなファンさんのモットーは「チャンスはすぐに通りすぎてしまう。迷うくらいなら、やっつけから考える」。だからなのか、ファンさんは演劇部のほか華道部、ペンクラブ、手品サークル、ハンド



メイドサークルと、5つのクラブとサークルに参加して忙しく日々を送っていました。留学生が日本人学生と交流しながら、弓道や合気道、華道や茶道などの日本文化を体験する「日本文化交流会」では企画・調整役を務めたことも。興味のあることには何でもチャレンジしたそうです。

卒業を間近に控えた今、一番の関心ことは「演劇部の卒業公演を無事やり遂げること」だそうです。(虹色祭)帝塚山大学祭でのステージを見たことがきっかけで入部した演劇部。学生生活最後の講演を観客に楽しんでもらいたいと目を輝かせます。

卒業後は、中国人観光客が多く利用するホテルでの勤務が決まっているファンさん。夢は大きく、「日本と中国のよいところを互いに知ってもらいたい」と話します。帝塚山大学で学んだことを仕事でも生かしていきたいと笑顔で話してくれました。

(写真右「日本文化交流会」での華道体験の様子。ファンさんはミニフラワーアレンジメントの作り方を指導した。)

OPEN CAMPUS 2024

プログラム

- キャンパスガイド&入試説明会
- キャンパス見学ツアー
- 学科体験授業
- 個別相談
- 先輩と話そう!
- 学生スタッフによる特別イベント など

※プログラムは変更の可能性があります。

全日程・全学部・全学科対象

学園前キャンパス

5/26日

11:00~16:30

東生駒キャンパス

6/2日

11:00~16:30

学園前キャンパス

6/16日

11:00~16:30

学園前キャンパス

7/14日

11:00~16:30

東生駒キャンパス

7/28日

11:00~16:30

学園前キャンパス

8/10日

11:00~16:30

東生駒キャンパス

8/17日

11:00~16:30

東生駒キャンパス

9/1日

13:00~16:30

学園前キャンパス

12/15日

13:00~16:30

東生駒キャンパス開催時は近鉄奈良線「東生駒」駅より無料シャトルバスを運行

全学部・全学科対象

入試対策講座
&ミニ・オープンキャンパス

学園前キャンパス

10/6日

9:30~小論文・国語・英語

オープンキャンパスに参加できない方には、本学スタッフが個別に案内しています。希望により個別相談も行っていますので、ご都合に合わせて事前にご予約ください。

©以下の連絡先まで電話でお申し込みください。

入試広報課 0742-48-8821 (直通)

最新情報はこちら

[入試情報サイト]

